

Hokkaido University Institute for the Advancement of Higher Education

# ニュースレター



北海道大学 高等教育推進機構

Newsletter No. 108

- ピアサポート室2016年度活動報告 (5ページ)
- シラバスのブラッシュアップ研修を開催 (16ページ)
- 2016年度学生調査および卒業生調査を実施しました (20ページ)
- 平成29年度全学公開講座のテーマ・講師が決定 (23ページ)
- 2016修了式公開シンポジウム報告  
「手のひらから宇宙まで ～電波が創発する  
コミュニケーション, そしてアート～」 (26ページ)
- (詳しい目次は裏表紙にあります)

## 巻頭言 FOREWORD

### IR事業の新展開

高等教育推進機構教授・IRネットワーク推進室 細川 敏幸

#### これまでの活動

2009年文部科学省の大学教育充実のための戦略的  
大学連携支援プログラム事業として「相互評価に基  
づく学士課程教育質保証システムの創出：国公立  
4大学IRネットワーク」(2009～2011年度, 代表校：  
同志社大学) が選定され, 北海道大学, 大阪府立大  
学, 甲南大学がこれに参加しました。高等教育研究  
部はこの事業に参加することで, 2009年度以降1年  
に1度の1年生と3年生を対象とした共通学生調査  
票を用いた教育力の間接評価を実施してきました。  
さらにそれを発展させた「教学評価体制 (IRネッ

トワーク) による学士課  
程教育の質保証」(2012  
～2016年度, 代表校：北  
海道大学) が文部科学省  
大学間連携共同教育推進  
事業に採択され, 上記4  
校の他にお茶の水女子大  
学, 琉球大学, 玉川大学,  
関西学院大学が加わりました。これにより教学の  
IRを担うIRネットワーク推進室 (以下推進室) が  
高等教育推進機構に設置されるとともに, 英語力調

査や卒業生調査を実施してきました。平行して、2012年には独立した組織として大学IRコンソーシアムを結成し、今では全国49大学が参加するまでに発展しています。コンソーシアムでは、8大学連携事業と同一の質問項目によるアンケート調査を実施し、学生の学力や学習状況、ならびにリーダーシップやコミュニケーション力のようなコンピテンシーの習得状況を、全国的に把握することができるようになりました。

### 北大生の特徴

このような活動により、日本の大学生の平均像と、それと比較した北大生の平均像がわかるようになりました。まず、「単位の実質化」の動きに合わせて興味があったのは、自習時間です。2015年の8大学(平均有効回答者数1年生10,060名、上級生12,119名)では、予習復習に費やす時間は平均4.4時間であり、NSSE (National Survey of Student Engagement) で報告(2015)されている米国の1年生の平均自習時間13時間に比べればはるかに少ないことがわかりました。上級生では4.1時間に減少するので、さらに深刻です。幸いなことに北大生の平均自習時間は、1年生8.4時間、3年生7.0時間と他大学に比べて多く、米国の半分を超えています。このことは、全学教育における授業評価アンケートにおける科目あたりの自習時間の平均値、1.2時間ともほぼ符合する結果です。

安心してばかりはいられません。北大生が他大学に比べて低い値を示している項目もたくさんあります。図1をご覧ください。上級生調査で入学後の能力変化をたずねたところ、北大生は特に4項目で他大学よりも低くなりました。①リーダーシップ、②人間関係を構築する能力、③他の人と協力して物事を遂行する能力、そして④外国語の運用能力です。同様な結果は、本学の大学院生を対象にした①～③を含むコンピテンシーに関する調査、北大生を採用したところのある企業への調査等からも得られています。このことから、本学の教育システムとしての課題は、コンピテンシーと英語の教育であることがわかりました。これらの欠点を解消するために、「スーパーグローバル大学創成支援 (Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ、以下HUCI)」として、新渡戸カレッジや新渡戸スクールが運用され

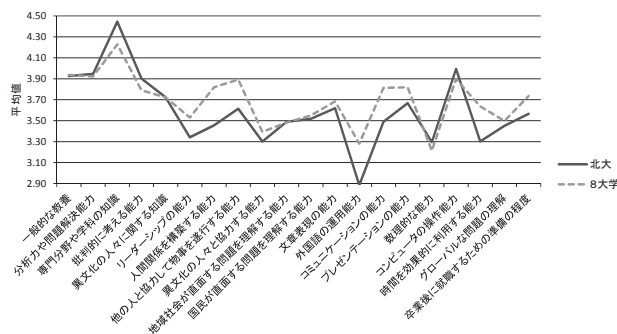


図1 入学後の能力変化 (2014年上級生)

るようになりました。推進室では、新渡戸カレッジの教育評価も行っており、期待以上の効果がみられることを報告しました。

### これからの役割

全学的教育システムにより多様な人材育成をするためには、PDCAサイクルを活用した教育制度改革自体の質保証が重要です。特に日本の大学では、C (Check) のための制度が脆弱であり、その強化が期待されていました。急速に変化する社会状況に対応できる卓越した人材を輩出するためには、大学間連携事業の経験をもとに、学生の入学前から大学院を含め卒業後までの期間を対象に調査・分析を行い、教育制度改革の成果を評価するとともに、次の改革を提言できる、さらにアクティブな評価組織が求められています。

推進室は、総合IR室と連携し本学における教学に関するデータの収集・蓄積を行い、当該データを分析・検証することにより、本学における教育改革の促進及びHUCIにおいて実施する教育関係事業の推進に資するとともに、高度人材養成における社会との連携の促進に寄与していきます。

さらに、学士課程における共通アンケートを利用した教育力の間接評価をベースに、大学院生・卒業生さらには卒業生の受け入れ組織まで調査対象を拡大し、本学の戦略的教育システムを評価するとともに、各部署のアセスメント・ポリシーに基づく評価の実施を支援します。加えて、評価結果と大学の将来像を考慮した提言を行うことで、本学における新たな戦略の展開に寄与することになります。

### アセスメント・ポリシーの実現に向けて

本学はこれからアセスメント・ポリシーを設定

し、そのポリシーにしたがって教学アセスメントを実施していく予定です。教学アセスメントに利用できるデータは、①学生の成績、②学生の学習状況や習得状況のアンケート、③卒業生調査、④学生による授業アンケート、⑤企業調査、⑥カリキュラム・チェックなどが考えられます。このうち各部局にお

ける②～⑤は推進室の協力のもとで実施・分析され、改善点などの提言とともにその結果が戻されます。PDCAサイクルを活用した教育制度改革は、これにより保証されます。上手に推進室を利用していただけ、本学の教育力を向上させていただければと思います。

## 高等教育推進機構 Institute for the Advancement of Higher Education

### ラーニングサポート室2016年度活動報告

高等教育研修センターラーニングサポート部門（通称ラーニングサポート室（LSO））では、主に初年次学生に対し、修学設計支援・学習支援・データ分析からなる学修支援を行っています。

#### 2016年度活動報告

2016年度の利用状況を表1に示します。学習サポート（学生からの学習に関する質問にLSOスタッフと大学院生チューター（TA）が対応するもの、写真1）の延べ利用人数は3189人（3/10時点）となりました。これは2015年度よりも200人ほど多く、過去2番目に多い人数です。



写真1 学習サポートの様子（2016年7月）

表1 2016年度LSO利用状況

支援内容	延べ利用者数 (カッコ内は2015年度実績)
進路・修学相談	792人*(873人)
進路相談会	315人(318人)
学習サポート (個別学習相談)	3189人*(2962人)
スタディ・スキルセミナー	501人(414人)
アカデミックスキルセミナー	143人(306人)
物理のコツ	7394枚配布(4962枚配布)
英語コミュニケーション	61人(118人)
英語ライティングクリニック	13人(15人)

\*3/10時点

2016年度は従来の支援の内容改善に努めました。その結果、スタディ・スキルセミナー（各学期の始めにノートの取り方やレポートの書き方、プレゼン

の方法をレクチャーするもの）が、参加者が倍増した前年度よりもさらに90人近く参加者を伸ばしたほか、物理のコツ（物理学の要点解説をした全21回の資料配布型支援）は前年度と比べ1.5倍となる約7400枚を配布しました。一方でアカデミックスキルセミナー（学部生、大学院生向けのスキルセミナー）は参加人数が半減してしまい、課題が残りました。英語コミュニケーション（留学生チューターを交えた英会話教室）の参加人数が半減したのは第1学期のみの開催となったためです。

また、各学部にご協力をいただき、アカデミック・マップ（全学部の研究キーワードの一覧）に載せる研究キーワードについて、意味が広すぎたり研究内容が分かりづらいものについて積極的に変更を加えることで、内容改善に注力しました。

新たな支援として、Web上で化学の解説を行うLSO有機化学のページを開設しました。動的なコン

テンツやインタラクティブな内容によって正課授業を補完し、学習を促す狙いがあります。

データ分析では、例年通り学生アンケート等の調査分析を行うと共に、次に述べる学習サポートの効果の検証などを行いました。

### 学習サポートの効果検証の報告

学習サポートの利用が学生の学力向上に結びついているのかどうかは自明ではありません（やり方によってはむしろ逆効果になってしまうことも十分に考えられます）。学習サポートを1回以上利用した学生（以下、利用者）とそれ以外の学生（以下、非利用者）では移行点に差があることは過去の分析からも認識されていました。図1は2016年度総合入試入学者に対する利用者とは非利用者の移行点の分布です。マン・ホイットニーのU検定（以下、U検定）により、この二つの分布に有意に差があることが示されます（ $p < 0.01$ ）。しかし、このことから学習サポート利用によって学力が向上したのか、もともと学力の高い学生が学習サポートを利用する傾向にあったのかは分かりません。

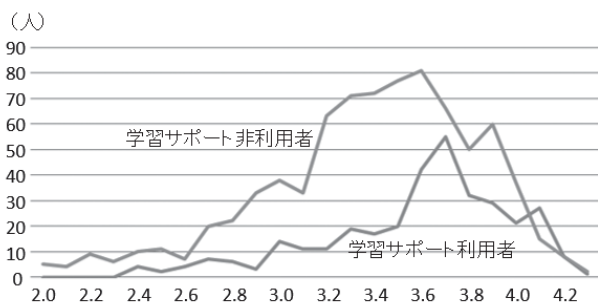


図1 2016年度総合入試入学者の移行点の分布

そこで学生のもともとの学力の指標として入学試験の得点を考慮に入れ、検証を行いました。まず、入試得点の分布に利用者とは非利用者で差があったとは言えないことが分かりました（U検定、 $p = 0.64$ 、図2）。さらに、学生の入学時からの学力の伸びの

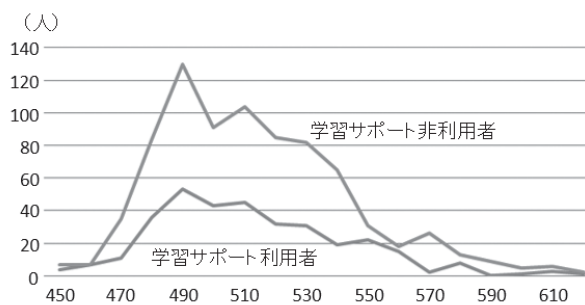


図2 2016年度総合入試入学者の入試得点の分布

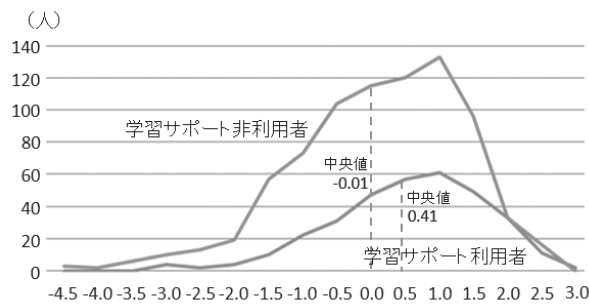


図3 2016年度総合入試入学者の〈標準化移行点－標準化入試得点〉の分布

指標として、標準化した移行点と標準化した入試得点の差を考え、利用者とは非利用者の分布を調べました（図3）。この二つの分布には有意に差があることが示されました（U検定、 $p < 0.01$ ）。利用者は非利用者よりも入学後に学力が向上したということになります。ただし、この結果からは学習サポートの利用によって学力が向上したのか、もともと学習意欲が高く、学力の伸びが期待できる学生が学習サポートを利用する傾向にあったのかは分かりません。

以上のことは2013年度から2015年度までの総合入試入学者についてもそれぞれの年度で同様の傾向が見られました。

LSOでは今後も学習サポートを始めとする各支援が少しでも学生の知性の芽を育てるものとなるよう努め、その効果の詳しい検証を重ねて参ります。

（浅賀 圭祐，立花 優）



## ピアサポート室2016年度活動報告

### —学生ならではの視点でよりよい学生支援を—

ピアサポートとは、「仲間 (peer) による支援 (support)」を意味し、北海道大学ピアサポート室では、学生による学生のための支援活動を行っています。ピアサポート室は、学部1年生が学ぶ高等教育推進機構と北図書館をつなぐ、情報教育館2階に一室をいただき、平日12:00~16:30(祝休日・長期休暇を除く)毎日開室しています。また、学生2名がピアサポーターとして常駐し、学生からの相談を受け付けるとともに、フリースペースとして開放しており誰でも自由に利用できます(写真1)。

2016年度のピアサポート室への相談者は365人で、一日あたりの相談人数はおよそ3人でした。その内容は、学業、部活・サークル等の課外活動、健康問題、人間関係から文具貸し出しや道案内まで多岐に及びます。ピアサポート室は、「サークルの人間関係で悩んでいる」といった切実な悩みから、「ホッチキスを貸して下さい」という文具貸し出しなどの簡単な相談まで、学生のあらゆる悩みの受け皿となっています。

また、ピアサポート室は相談場所だけでなく、フリースペースとしての機能も有しています。2016年度のピアサポート室への来室者数は5861人で、一日当たりの来室者数はおよそ40人でした。一日あたりの相談者数が約3人であったのに対し、一日当たりの来室者数が40人であることから、フリースペースとして利用する学生が多いことがわかります。ピアサポート室は、自習、飲食、談笑可能な部屋として



写真1 ピアサポート室の様子

開放しており、昼休みに昼食を取りに来る学生や、友人との憩いの場として利用している学生や定期考査の時期に試験勉強に取り組む学生が多く見受けられます。フリースペースとして開放することで学生の居場所として機能しているピアサポート室ですが、単なるフリースペースとならないように、ピアサポーターと利用者との交流を促進する企画や、普段からピアサポーターから利用者への声かけを行っています。具体的には、無料でコーヒーや紅茶などを提供するピアカフェや七夕の時期に合わせて短冊に願い事を書いてもらう企画などのイベントなどを行いました。

ピアサポート室では相談場所とフリースペースという二つの機能を上手く組み合わせることで、まずはフリースペースとして気軽に利用してもらい、何か困り事・悩み事があった時には気兼ねなくピアサポーターに相談してもらえるような環境作りを目指しています。

2016年度の特徴的な活動は、専門機関との連携強化です。ピアサポート室は学生の多様な悩みの受け皿となり、必要に応じて学内の専門機関(学生相談室、保健センター、ラーニングサポート室など)と学生をつなげる役割を担っています。この専門機関と学生をつなげるという役割を果たすためには、ピアサポート室と専門機関との連携が不可欠となるため、2016年度は専門機関との連携の強化に力をいれてきました。具体的には、専門機関を紹介する冊子づくりや学生ボランティア活動相談室、特別修学支援室との連携企画を行いました。冊子づくりは、学生相談室など専門機関をピアサポーターが学生目線で紹介することで、専門機関をより身近なものに感じてもらうという趣旨のもと企画し、学生が自由に閲覧できるよう作成した冊子を室内のテーブルに配置しました(写真2)。利用学生からは「今まで知らなかった機関を知ることができた」などのコメントをいただき、一定の成果を出せたと考えております。今後も専門機関との連携を深めることで、ピアサポート室の相談機関としての機能を高められるような取り組みを行っていきます。



写真2 紹介冊子（表紙（左）と記事の一部抜粋（右））

ピアサポート室は、学生運営の学内組織という敷居の低さを活用して学生の居場所としての役割を担うとともに、学生の悩み・関心の大きな受け皿となり専門機関と連携することで、学生支援をさらに円滑なものとするよう尽力していきますので、今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。  
 （平塚 杏子 平成28年度北海道大学ピアサポート室学生代表 文学部4年）

## 全学教育 GENERAL EDUCATION & 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

### 学務委員会報告

平成28年7月28日（木）、平成28年8月31日（水）、平成28年11月30日（水）、平成28年12月9日（金）、平成29年2月28日（火）、平成29年3月21日（火）にそれぞれ平成28年第1回、第2回、第3回、第4回、第5回、第6回の学務委員会が開催され、以下の議題が会議にかけられました。

#### 平成28年度第1回学務委員会

議題1 全学教育科目における4学期制の試行について

本学では4学期制を推進するにあたり、全学教育の一部の科目で4学期制が施行されることが了承されました。

議題2 平成29年度全学教育科目の開講計画について

全学教育科目の開講計画が説明され、了承されました。ほぼ例年どおりです。

議題3 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構学務委員会大学院共通教育専門委員会 内規の一部改正について  
 委員会内規の一部の修正です。

#### 平成28年度第2回学務委員会

議題1 総合入試入学の外国人留学生の移行点の取扱いについて

総合入試入学の外国人留学生について、実行教育課程表との整合性を取るための修正が図られました。

議題2 総合入試に伴う学部振り分け基本方針の一部改正について

志望登録の前に行う志望調査を、志望登録と同様の志望登録数としました。これは、志望調査と志望登録では順位等に齟齬が生じる可能性もあったからです。

#### 平成28年度第3回学務委員会

議題1 平成29年度全学教育科目の開講計画について

全学教育科目の開講計画案が承認されました。

議題2 平成29年度全学教育科目に係るTF、TAの採用について

全学教育科目のTF、TAの採用が決定しました。

議題3 平成29年度全学教育部・総合教育部行事予定表について

全学教育部・総合教育部の行事予定表案が了承されました。

## 平成28年度第4回学務委員会

審議内容が軽微なため持ち回り開催で行われました。

## 平成28年度第5回学務委員会

議題1 北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程について

全学教育科目の総合科目が2単位化されること、およびISPの日本語科目が新設されることに伴い、規定が改正されました。

議題2 全学教育科目実行教育課程表の一部改正について

議題1の規定の改正に伴い、実行教育課程表も改正されました。

議題3 2年次進級時における学部・学科等への移行点の算出基準単位表の一部改正について

これも主として総合科目の2単位化に伴う措置です。

議題4 平成29年度全学教育科目に係るTF採用予定状況

全学教育に関わるTAおよびTFの採用状況の説明があり、了承されました。

議題5 進級判定、進級要件単位充足判定について

2年次進級要件は、1年以上の在学と32単位以上の単位修得です。総合入試入学者については、2年次に進級する学部・学科が決まっていることとなります。進級要件単位取得者数について報告があり、了承されました。

議題6 第ゼロ次振り分け定員・第一次振り分け定員の決定について

やや専門用語のようですが、総合入試学生が進級振り分けにおいて、進級可能者数と学科毎の定員との差異が生じるため、学科毎に定員を分けることを第ゼロ次振り分けと言います。またその80%を第一次振り分けとして1回目の進級振り分けを行います。今回この作業が完了し、了承されました。

議題7 北海道大学大学院共通授業科目規程の一部

を改正について

大学院共通科目に演習科目を含めることにともない、大学院共通授業科目の一部改正案が了承されました。

議題8 北海道大学大学院One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム規程について

平成29年度から大学院獣医学研究科を廃止し、大学院獣医学院および大学院国際感染症学院を設置し、博士課程リーディングプログラム、獣医科学グローバルリーダー育成プログラム規程が設置されます。これにともない、プログラム規定案が了承されました。

## 平成28年度第6回学務委員会

議題1 総合入試入学者の移行先の決定について

総合入試入学者について移行する学科やコースが決定したことが報告されました。また移行先が決まらず、留年することになった学生でも3月中に空き定員のあるコースへの変更を申し出れば受理されることになっておりました。しかし、結果的には変更を申し出る学生は現れずに、ここでの決定通りに移行先が決定されました。

報告事項1 1年次学生の移動について

1年次学生の休学と退学状況について報告がありました。

報告事項2 平成29年度クラス担任幹事会およびクラス担任等連絡会について

平成29年度クラス担任幹事会が3月3日に、クラス担任等連絡会が3月16日にあり、そこで議論された内容についての報告がありました。また、学生相談・メンタルヘルス講演会が5月中旬頃予定されていることや、平成29年度第2回クラス担任等連絡会が平成29年9月上旬に開催されるとの報告もありました。

(鈴木 久男)



# 平成29年度 全学教育部・総合教育部行事予定表

## 第1学期

月日(曜日)	行 事
4 3(月)～5(水)	新入生定期健康診断
6(木)	新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス(学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
7(金)	入学式
10(月)	履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム(ELMS)利用に関するガイダンス
10(月)～11(火)	日本学生支援機構・新規奨学生募集説明会(2年次以上は12(水)に実施)
11(火)	第1学期授業開始日
11(火)～17(月)	抽選科目の申込期間(Web入力)
19(水)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
19(水)～21(金)	日本学生支援機構・新規奨学生申請書提出期間(2年次以上は24(月)～25(火))
20(木)～26(水)	履修登録(Web入力)
5 9(火)～10(水)	履修時間割確認期間
15(月)	6講時授業実施開始※下記参照
6 2(金)～4(日)	大学祭[期間中休講]
12(月)～14(水)	履修登録科目の取消期間(Web)
17(土)	TOEFL-ITP試験(英語Ⅱ)
19(月)～21(水)	自由設計科目登録変更期間
22(木)	6講時授業実施終了※下記参照
7 25(火)	火曜日の授業終了日
31(月)	月曜日の授業終了日
8 1(火)	初習外国語統一試験日(通常授業は休講)
2(水)	水曜日の授業終了日
3(木)	木曜日の授業終了日
4(金)	金曜日の授業終了日(第1学期授業終了日)
6(日)～7(月)	オープンキャンパス
7(月)～9/26(火)	夏季休業日
14(月)	成績報告締切(非常勤[帳票])
17(木)正午	成績報告締切(常勤[Web入力])
24(木)	全学教育科目成績Web上公開
24(木)～25(金)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
9 上旬～中旬	学科等分属手続:当該学部(2年次以上)

## 第2学期

月日(曜日)	行 事
9 25(月)	ISP入学式(予定)
25(月)午後	学部・学科等移行ガイダンス
26(火)	学部・学科等紹介
27(水)	第2学期授業開始日
27(水)～10/2(月)	学部・学科等移行手続き(予備志望調査)
27(水)～10/3(火)	抽選科目の申込期間(Web入力)
10 4(水)	予備志望調査結果発表
5(木)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
6(金)～13(金)	履修登録(Web入力)
23(月)～24(火)	履修時間割確認期間
11 26(日)	AO入試・帰国子女入試・国際総合入試
27(月)～29(水)	履修登録科目の取消期間(Web)
12 4(月)～6(水)	自由設計科目登録変更期間
26(火)～1/4(木)	冬季休業日
1 5(金)	授業再開
12(金)	センター試験準備(休講)
13(土)～14(日)	大学入試センター試験
24(水)	水曜日の授業終了日
30(火)	火曜日の授業終了日
31(水)	初習外国語統一試験日(通常授業は休講)
2 1(木)	木曜日の授業終了日
2(金)	金曜日の授業終了日
5(月)	月曜日の授業終了日(第2学期授業終了日)
6(火)午後	学部・学科等移行ガイダンス
7(水)	学部・学科等紹介
13(火)	成績報告締切(常勤[Web入力], 非常勤[帳票])
16(金)	私費外国人留学生入試第2次選考
19(月)	全学教育科目成績Web上公開
19(月)～20(火)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
25(日)～26(月)	一般入試個別学力検査等(前期日程)
28(水)正午	全学教育科目成績確定
28(水)午後～	第1年次進級判定
28(水)午後～3/20(火)	学部・学科等移行手続き(第1回志望調査～各学部振り分け)
3 12(月)	一般入試個別学力検査等(後期日程)

第1回クラスアワー	4月6日(木)新入生オリエンテーション時
第2回クラスアワー	5月上旬～6月下旬

第3回クラスアワー	9月下旬～10月中旬(基本的に9月25日(月)午前を利用)
第4回クラスアワー	2月初旬(基本的に2月6日(火)午前を利用)

### ※6講時(18:15-19:45)授業実施スケジュール

月曜日1講時	5/18(木)実施	金曜日1講時	5/23(火)実施
月曜日2講時	5/25(木)実施	金曜日2講時	6/6(火)実施
月曜日3講時	6/8(木)実施	金曜日3講時	6/13(火)実施
月曜日4講時	6/15(木)実施	金曜日4講時	6/20(火)実施
月曜日5講時	6/22(木)実施	金曜日5講時	5/16(火)実施

### ※4学期制実施スケジュール

	授業実施期間	履修取消期間	自由設計科目登録変更期間
春ターム	4/11(火)～6/9(金)	5/15(月)～17(水)	5/22(月)～24(水)
夏ターム	6/6(火)～8/4(金)	7/10(月)～12(水)	7/18(火)～20(木)
秋ターム	9/27(水)～11/27(月)	11/6(月)～8(水)	11/13(月)～15(水)
冬ターム	11/22(水)～2/5(月)	1/9(火)～11(木)	1/15(月)～17(水)



# 平成28/27年度（第1学期）全学教育科目履修者数対比表

区分	授 業 科 目	28年度1学期（履修取消後）			27年度1学期（履修取消後）			28/27年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
一般教育演習（フレッシュマンセミナー）	（集中・論文指導除く）小計	43	824	19.16	38	746	19.66	78	110.5%
	（集中〈通年集中除く〉）小計	17	341	20.06	17	333	19.59	8	47.1%
	（論文指導）小計	50	1,045	20.90	49	1,047	21.37	▲ 2	99.8%
	環境と人間	15	961	64.07	15	905	60.33	56	106.2%
	健康と社会	8	1,106	138.25	8	1,182	147.75	▲ 76	93.6%
総合科目	人間と文化	8	438	54.75	6	266	44.33	172	164.7%
	特別講義	1	40	40.00	1	54	54.00	▲ 14	74.1%
	総合科目 小計	32	2,545	79.53	30	2,407	80.23	138	105.7%
	思索と言語	11	1,211	110.09	14	980	70.00	231	123.6%
	思索と言語（論文指導）	4	41	10.25	4	55	13.75	▲ 14	74.5%
主題別科目	歴史の視座	8	499	62.38	8	400	50.00	99	124.8%
	歴史の視座（論文指導）	4	95	23.75	6	124	20.67	▲ 29	76.6%
	芸術と文学	7	827	118.14	9	914	101.56	▲ 87	90.5%
	芸術と文学（集中）	3	210	70.00	2	139	69.50	71	151.1%
	芸術と文学（論文指導）	4	62	15.50	4	81	20.25	▲ 19	76.5%
	社会の認識	22	1,341	60.95	24	1,464	61.00	▲ 123	91.6%
	社会の認識（論文指導）	9	146	16.22	7	112	16.00	34	130.4%
	科学・技術の世界	16	1,277	79.81	19	1,541	81.11	▲ 264	82.9%
	科学・技術の世界（論文指導）	2	60	30.00	2	41	20.50	19	146.3%
	科学・技術の世界（1単位・春ターム）	4	158	39.50	-	-	-	-	-
	科学・技術の世界（1単位・夏ターム）	4	134	33.50	-	-	-	-	-
	主題別科目 小計	98	6,061	61.85	99	5,851	59.10	210	103.6%
	（集中・論文指導除く）小計	72	5,447	75.65	74	5,299	71.61	148	102.8%
	（集中）小計	3	210	70.00	2	139	69.50	71	151.1%
	（論文指導）小計	23	404	17.57	23	413	17.96	▲ 9	97.8%
共通科目	体育学A（実技・1単位）	66	1,653	25.05	49	1,577	32.18	76	104.8%
	体育学B（講義・2単位）	1	130	130.00	1	140	140.00	▲ 10	92.9%
	情報学	19	2,707	142.47	19	2,681	141.11	26	101.0%
	統計学	11	808	73.45	11	820	74.55	▲ 12	98.5%
	インターンシップ	(2)	-	-	(2)	161	80.50	-	-
共通科目 小計	97	5,298	54.62	80	5,379	67.24	▲ 81	98.5%	
外国語を除く教養科目 合計		337	16,114	47.82	313	15,763	50.36	351	102.2%
うち論文指導（主題別・一般教育演習）小計		73	1,449	19.85	72	1,460	20.28	▲ 11	99.2%
外国語科目	英語	137	5,358	39.11	137	5,336	38.95	22	100.4%
	ドイツ語	26	1,002	38.54	26	1,013	38.96	▲ 11	98.9%
	フランス語	13	474	36.46	13	505	38.85	▲ 31	93.9%
	ロシア語	5	172	34.40	5	152	30.40	20	113.2%
	スペイン語	5	190	38.00	6	237	39.50	▲ 47	80.2%
	中国語	22	794	36.09	21	742	35.33	52	107.0%
	韓国語	5	102	20.40	5	100	20.00	2	102.0%
	外国語科目 小計	213	8,092	37.99	213	8,085	37.96	7	100.1%
外国語演習	英語演習	101	1,522	15.07	102	1,455	14.26	67	104.6%
	英語演習（集中）	5	82	16.40	5	96	19.20	▲ 14	85.4%
	ドイツ語演習	13	294	22.62	12	296	24.67	▲ 2	99.3%
	フランス語演習	11	222	20.18	14	187	13.36	35	118.7%
	ロシア語演習	7	117	16.71	6	90	15.00	27	130.0%
	スペイン語演習	7	139	19.86	8	151	18.88	▲ 12	92.1%
	中国語演習	17	267	15.71	18	273	15.17	▲ 6	97.8%
	韓国語演習	7	46	6.57	7	70	10.00	▲ 24	65.7%
	外国語特別演習	10	170	17.00	13	243	18.69	▲ 73	70.0%
外国語演習 小計	178	2,859	16.06	185	2,861	15.46	▲ 2	99.9%	
外国語 合計		391	10,951	28.01	398	10,946	27.50	5	100.0%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	9	1,189	132.11	11	1,277	116.09	▲ 88	93.1%
	文系基礎科目 小計	9	1,189	132.11	11	1,277	116.09	▲ 88	93.1%
	線形代数学	34	1,904	56.00	34	1,915	56.32	▲ 11	99.4%
	微分積分学	34	1,976	58.12	34	1,969	57.91	7	100.4%
	数学概論	2	13	6.50	2	10	5.00	3	130.0%
	数学 小計	70	3,893	55.61	70	3,894	55.63	▲ 1	100.0%
	物理学	24	1,858	77.42	25	1,859	74.36	▲ 1	99.9%
	化学	29	1,886	65.03	29	1,885	65.00	1	100.1%
	生物学	21	1,809	86.14	19	1,823	95.95	▲ 14	99.2%
	地球惑星科学	6	698	116.33	6	675	112.50	23	103.4%
	理科 小計	80	6,251	78.14	79	6,242	79.01	9	100.1%
	基礎自然科学実験	1	13	13.00	1	9	9.00	4	144.4%
	自然科学実験	17	992	58.35	18	1,001	55.61	▲ 9	99.1%
	実験 小計	18	1,005	55.83	19	1,010	53.16	▲ 5	99.5%
基礎科目 合計	177	12,338	69.71	179	12,423	69.40	▲ 85	99.3%	
日本語・日本事情		3	27	9.00	4	20	5.00	7	135.0%
全学教育科目 1学期合計		908	39,430	43.43	894	39,152	43.79	278	100.7%

※ 一般教育演習 集中講義「グローバルキャリアデザイン」及び「インターンシップ」の履修者数は、未定のため、「28/27年度比較」欄は、これらを除いて算出している。

※ 教養教育連携事業（受信科目）については除外

## 平成28/27年度（第2学期）全学教育科目履修者数対比表

区分	授 業 科 目	28年度2学期			27年度2学期			28/27年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習（フレッシュマンセミナー）	57	1,175	20.61	62	1,284	20.71	▲ 109	91.5%
	（集中・論文指導除く）小計	29	544	18.76	30	594	19.80	▲ 50	91.6%
	（集中・フィールド体験）小計	7	219	31.29	7	200	28.57	▲ 19	109.5%
	（論文指導）小計	21	412	19.62	25	490	19.60	▲ 78	84.1%
総合科目	環境と人間	13	1,604	123.38	14	1,578	112.71	▲ 26	101.6%
	健康と社会	5	1,098	219.60	5	951	190.20	▲ 147	115.5%
	人間と文化	5	282	56.40	6	420	70.00	▲ 138	67.1%
	特別講義	1	44	44.00	1	61	61.00	▲ 17	72.1%
	総合科目 小計	24	3,028	126.17	29	3,010	120.76	▲ 18	100.6%
主題別科目	思索と言語	5	533	106.60	6	726	121.00	▲ 193	73.4%
	思索と言語（論文指導）	2	52	26.00	2	41	20.50	▲ 11	126.8%
	歴史の視座	6	991	165.17	8	1,008	126.00	▲ 17	98.3%
	歴史の視座（1単位・秋ターム）	1	59	59.00	-	-	-	-	-
	歴史の視座（1単位・冬ターム）	1	51	51.00	-	-	-	-	-
	歴史の視座（論文指導）	2	52	26.00	2	51	25.50	▲ 1	102.0%
	芸術と文学	8	1,132	141.50	10	1,558	155.80	▲ 426	72.7%
	芸術と文学（論文指導）	2	56	28.00	1	35	35.00	▲ 21	160.0%
	社会の認識	15	1,396	93.07	12	1,505	125.42	▲ 109	92.8%
	社会の認識（論文指導）	7	113	16.14	8	129	16.13	▲ 16	87.6%
	科学・技術の世界	19	1,523	80.16	16	1,342	83.88	▲ 181	113.5%
	科学・技術の世界（1単位・秋ターム）	4	125	31.25	-	-	-	-	-
	科学・技術の世界（1単位・冬ターム）	4	126	31.50	-	-	-	-	-
	科学・技術の世界（論文指導）	1	24	0.00	1	16	0.00	▲ 8	0.0%
主題別科目 小計	77	6,233	80.95	66	6,411	97.14	▲ 178	97.2%	
	（集中・論文指導除く）小計	63	5,936	94.22	52	6,139	118.06	▲ 203	96.7%
	（論文指導）小計	14	297	21.21	13	256	19.69	▲ 41	116.0%
共通科目	体育学A（実技・1単位）	27	895	33.15	45	1,229	27.31	▲ 334	72.8%
	体育学B（講義・2単位）	3	782	260.67	2	306	153.00	▲ 476	255.6%
	情報学	11	437	39.73	11	498	45.27	▲ 61	87.8%
	統計学	9	707	78.56	9	704	78.22	▲ 3	100.4%
	共通科目 小計	50	2,821	56.42	67	2,737	40.85	▲ 84	103.1%
	外国語を除く教養科目 合計	208	13,257	63.74	217	13,442	61.44	▲ 185	98.6%
	うち論文指導（主題別・一般教育演習）小計	35	709	20.26	34	668	19.65	▲ 41	106.1%
外国語科目	英語	154	4,491	29.16	154	4,535	29.45	▲ 44	99.0%
	ドイツ語	26	983	37.81	26	989	38.04	▲ 6	99.4%
	フランス語	13	464	35.69	13	490	37.69	▲ 26	94.7%
	ロシア語	5	168	33.60	5	157	31.40	▲ 11	107.0%
	スペイン語	5	187	37.40	6	232	38.67	▲ 45	80.6%
	中国語	21	812	38.67	20	738	36.90	▲ 74	110.0%
	韓国語	5	106	21.20	5	103	20.60	▲ 3	102.9%
外国語科目 小計	229	7,211	31.49	229	7,244	31.63	▲ 33	99.5%	
外国語演習	英語演習	73	1,037	14.21	75	947	12.63	▲ 90	109.5%
	ドイツ語演習	13	315	24.23	12	314	26.17	▲ 1	100.3%
	フランス語演習	13	261	20.08	11	223	20.27	▲ 38	117.0%
	ロシア語演習	8	103	12.88	9	106	11.78	▲ 3	97.2%
	スペイン語演習	7	89	12.71	9	158	17.56	▲ 69	56.3%
	中国語演習	18	370	20.56	23	448	19.48	▲ 78	82.6%
	韓国語演習	5	78	15.60	4	65	16.25	▲ 13	120.0%
	外国語特別演習	13	244	18.77	15	237	15.80	▲ 7	103.0%
外国語演習 小計	150	2,497	16.65	158	2,498	15.81	▲ 1	100.0%	
	外国語 合計	379	9,708	25.61	387	9,742	25.17	▲ 34	99.7%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	6	913	152.17	4	898	224.50	▲ 15	101.7%
	文系基礎科目 小計	6	913	152.17	4	898	224.50	▲ 15	101.7%
	線形代数学	28	1,096	39.14	28	980	35.00	▲ 116	111.8%
	微分積分学	28	1,424	50.86	28	1,453	51.89	▲ 29	98.0%
	数学概論	1	16	16.00	1	21	21.00	▲ 5	76.2%
	数学 小計	57	2,536	44.49	57	2,454	43.05	▲ 82	103.3%
	物理学	23	1,835	79.78	24	1,822	75.92	▲ 13	100.7%
	化学	27	1,855	68.70	27	1,838	68.07	▲ 17	100.9%
	生物学	21	1,473	70.14	21	1,431	68.14	▲ 42	102.9%
	地球惑星科学	6	955	159.17	6	1,026	171.00	▲ 71	93.1%
	理科 小計	77	6,118	79.45	78	6,117	78.42	▲ 1	100.0%
心理学実験	4	54	13.50	4	47	11.75	▲ 7	114.9%	
自然科学実験（2単位）	18	998	55.44	18	1,020	56.67	▲ 22	97.8%	
実験 小計	22	1,052	47.82	22	1,067	48.50	▲ 15	98.6%	
	基礎科目 合計	162	10,619	65.55	161	10,536	65.44	▲ 83	100.8%
	日本語・日本事情	1	16	16.00	1	14	14.00	▲ 2	114.3%
全学教育科目 2学期合計		750	33,600	44.80	766	33,734	43.90	▲ 134	99.6%
全学教育科目 1学期合計		908	39,429	43.42	894	39,152	43.79	▲ 277	100.7%
全学教育科目 1・2学期合計		1,658	73,029	44.05	1,660	72,886	43.91	▲ 143	100.2%

※教養教育連携事業（受信科目）については除外

## 教育支援 EDUCATIONAL SUPPORT

# 平成28年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催

大学職員セミナーは、平成18年度に北海道大学の公開講座として、道内の国公立大学の参加者を迎えて実施され、平成21年度からは、北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」として開催されています。今年度は11月8日（火）から9日（水）の2日間、北海道大学百年記念会館を会場に開催しました。学内6部局から10名と他16大学から29名の計39名の大学職員にご参加いただきました。

本研修は、①職場である大学を日常業務の立場か

ら少し離れた視点で捉え、②現場で起きている様々な問題の背景、改革の方向などについて考え、③他の参加者や講師と議論しながら今後の課題を探っていくことを目的とし、表1のプログラムにあるとおり講演、報告と参加者によるワークショップで構成されています。ワークショップでは、参加者は7つのグループに分かれ自分たちが参加したいと思う、こんな研修あったら良いなというSD研修を考えました。



写真1 グループワークの様子



写真2 講師も交えた集合写真

表1 研修プログラム

2016年11月8日（火）		2016年11月9日（水）	
12:30	受付開始	8:50	事務連絡
13:00	開講式・事務連絡	9:00	ワークショップII「大学職員のキャリア形成と意識改革—どのような研修で自分はよく学び、成長できたか、研修で何を学び、自分の仕事をどうふりかえるか—」
13:20	講演「大学職員のキャリアデザインとモチベーション」 京都大学教育推進・学生支援部次長 山本 淳司 氏	12:00	昼食・休憩
14:35	休憩	13:00	全体発表
14:40	報告I「酪農学園大学『SDフォーラム』の取組について」 学校法人酪農学園三愛精神に基づく健土健民戦略本部課長補佐 津川 裕一 氏	14:30	講評
15:20	報告II「大学職員に期待される役割の拡大～学びと成長のプロセスへの関与・貢献～」 ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室研究員 岡田 佐織 氏	15:00	閉講式・修了証書授与・写真撮影
16:10	ワークショップI「大学職員のキャリア形成と意識改革—どのような研修で自分はよく学び、成長できたか、研修で何を学び、自分の仕事をどうふりかえるか—」	15:30	終了・解散
17:10	終了		
17:30	情報交換会		

参加者アンケートによると「新人（若手）職員への体系化された研修の提供が急務だと思います」「普段話す機会のない私大の方の話を聞けて、いい機会になりました。」「『研修の仕方にかかわる研修作り』は現状の問題点を考え、解決策を考える業務改善を

意識させられるフローであり有意義であった」などという意見があり、参加者にとって実り多い研修となりました。

(山本 堅一)

## 講演会「授業準備と運営」を開催

11月11日（金）16時45分から120分間、北海道大学高等教育推進機構S講義棟S5講義室において、東北大学の呂本俊亮先生を講師にお招きした講演会「授業準備と運営」を開催し、12大学から52名の教職員にご参加いただきました。

本講演会は、学習者が集中できる授業、理解を促す授業を行うための準備や運営をどのようにすればよいのか、という点に焦点を当て、認知心理学・教育心理学の観点からお話いただきました。自分では理解しやすいように説明しているつもりでも学習者に理解されないのはなぜか、事例をふんだんに紹

介しながら参加者の理解と共感を得ていました。また、どうすればより伝わるのか、といった具体例についても紹介があったので、自分の授業を見直して参考にできる点が多かった講演会となりました。

参加者のアンケートからは「実践を踏まえながらの工夫の紹介もあり大変参考になりました」「自分の授業を改めて組み立て直してみようと感じました」などという声があり、とても有意義な研修となりました。

(山本 堅一)



写真1 講演の様子

写真2 講演に聞き入る参加者

## 第31回北海道大学教育ワークショップを開催

本学では毎年、着任後5年以内の教員を対象とした宿泊型の新任教員研修を実施しており、今年度3回目となる同研修を11月18日（金）から19日（土）の2日間、北広島市にある北広島クラッセホテルを会場に開催しました。学内12部局から15名と他大学から1名の参加者が4つのグループに分かれ、各グ

ループで一般教育演習の新たな授業を発案し、表1のプログラムに沿ってシラバスを作成することで、本ワークショップのテーマである「アクティブラーニング型授業の設計」について学びました。

シラバスの作成にあたっては、「講義題目・目標の設定」「授業方略」「学習評価」の3つのセッショ



ンをそれぞれレクチャーとグループ討議、発表とフィードバックを1セットとして行いました。また、ワークショップではシラバス作成以外のセッションとして、参加者から事前に挙げられた授業に関する困っていることをディスカッションするショートセッションや各自のシラバスを校正する時間も取りました。シラバスの校正は、世話人として参加している高等教育推進機構の教員が添削を行い、参加者は添削に基づき再校正をし、最後に世話人が確認して返却しました。タイトなスケジュールながらも、前回から取り入れているふり返りと修正の時間は確

保しました。

参加者アンケートによると「『教育』に漬かり続ける2日間は非常に充実しており、教育に対するモチベーション向上につながりました」「体系的なお話を聞けてためになりました」などという意見があり、満足度も5件法で平均値4.19と高く、参加者にとって実り多い研修となりました。アンケート結果を踏まえ、参加者にとってより実り多いワークショップになるよう、引き続き検討していきたいと思えます。

(山本 堅一)



写真1 エクセレントティーチャー受賞経験者による講演



写真2 最終発表時の質疑応答の様子

表1 第31回北海道大学教育ワークショッププログラム

2016年11月18日 (金)	2016年11月19日 (土)
8:30 受付開始 (高等教育推進機構 情報教育館3F スタジオ型中講義室)	6:30~ 朝食
8:45 開会挨拶	8:30 各グループ修正
9:00 バス出発【オリエンテーション1 (FDの意義, 自己紹介)】	9:00 《個人提出課題》参加者のシラバス再提出
10:00 北広島クラッセホテル到着	9:00 レクチャー3「成績評価」(細川敏幸)
10:10 オリエンテーション2	9:30 グループ討議3「成績評価」
10:50 レクチャー1「講義題目・目標の設定」(山本堅一)	10:30 休憩
11:20 グループ討論1「講義題目・目標の設定」	10:45 作成したシラバスの発表
12:20 昼食休憩	11:40 講評
13:10 中間発表1「講義題目・目標の設定」	11:50 レクチャー4「教育倫理」(細川敏幸)
13:40 《個人提出課題》参加者のシラバス校正作業	12:00 《個人提出課題》参加者のシラバス返却
14:00 レクチャー2「授業方略」(山田邦雅)	12:00 修了証書授与式
14:30 グループ討論2「授業方略」	12:20 バス出発【参加者・世話人の感想】
16:00 休憩	13:30 札幌駅到着, 解散
16:20 中間発表2「授業方略」	
16:50 ふり返りと修正	
17:20 ディスカッション「授業に関するQ & A」	
18:00 夕食休憩	
19:00 《個人提出課題》参加者のシラバス返却	
19:00 エクセレントティーチャー受賞経験者による講演	
19:45 懇親会	

## 学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくりワークショップを開催

12月9日（金）の16時45分から120分間、高等教育推進機構S講義棟S5講義室にて講師に滋賀県立大学の木村裕先生を招き「学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくりワークショップ」を開催し、8大学から14名の教職員にご参加いただきました。

本ワークショップは、授業中は学生に質問をしても反応がない、授業が終わると質問に来るのに授業中は質問が出ないなどといったよく聞く悩みを解決するため、学生に考えさせる問いかけや発言しやすい雰囲気はどのようなものかといったことを学ぶために6月に引き続き開催しました。講師の木村先生

から問いかけそのものの意義や作り方などのレクチャーがあった後、参加者同士で学生が発言しやすい時、しづらい時について議論し、学生からの発言を引き出す雰囲気・問いかけの作り方を体験的に学びました。

参加者のアンケートからは「自分が授業を組み立てる時に何となく意識していた点が明瞭になった」「知識を伝えることがメインになりがちな授業の中で少しでも学生が考える時間をもてるような発問を考えて授業の構成をしようと思います」などという声があり、有意義な研修となりました

(山本 堅一)



写真1 木村先生による講演の様子

写真2 参加者同士で議論する様子

## The basic guidance to academic presentations in English

The number of international conferences is steadily increasing and having English presentation skills has become a requirement. In order to extend the reach of participants' research, Center for Teaching and Learning offers this program to facilitate English presentation skills of the faculty staff. A basic guidance to academic presentations in English is a training program aimed to teach the basics of academic presentations in English. It is particularly useful to the participants who must hold a presentation in English in the nearest

future.

This time, guidance was divided into two one-hour long parts held on 2016/12/12 (first part) and 2016/12/19 (second part) and gathered a total of 43 participants. The first part was more theoretical and focused on the basics of making a successful presentation, whereas the second one was mostly practical and concentrated on developing concrete presentation skills.

The guidance was provided by Peter Lambert (Tom, Inc.), a professional lecturer who has been

providing services to local university and companies in Hokkaido area for many years. The guidance included methods on how to improve academic presentations by preparing impactful introductions, compelling conclusions and how to hook the audience with a talk. Mr. Lambert explained mechanisms to engage the audience and emphasize the contents of a presentation (creating English presentations to WOW the audience). His talk included many real-life examples from Hokkaido University teachers who have already mastered the art of making presentations. Another important aspect of a successful presentation mentioned by a lecturer was to provide an overview of presentation to build trust between the lecturer and the audience.

Mr. Lambert continued his lecture with a talk about the importance of verbal and nonverbal communication. He stressed the importance of purposeful hand gestures that contribute to

teacher's charisma and likeability, a genuine smile that makes a big difference in the first seconds of talk, and what effect can be achieved by varying one's voice. Another important topic tackled by a lecturer were power postures and poses that lead to increased feeling of confidence and improves ability to deal with stress during presentations.

On both days, the presentation was concluded with meaningful question and answer sessions, where the participants could consult with Mr. Lambert about the contents the lecture and how to improve their own presentations. The lecturer also used the remaining time as an opportunity to give more hints on other useful things, like the art of asking meaningful questions and making better connection with an audience or how to paraphrase audience questions when the lecturer didn't catch the meaning.

(Michal MAZUR)

Pic.1 Mr. Lambert explained the importance of purposeful body gestures and its significance for the successful presentation (First part)

Pic.2 The participants could consult with Mr. Lambert about their upcoming presentations and ask him for some advice (Second part)

## シラバスのブラッシュアップ研修を開催

12月17日（土）の13時から180分間、高等教育推進機構S講義棟S3講義室にて「シラバスのブラッシュアップ研修」を開催し、6大学から16名の教職員にご参加いただきました。

本研修は、授業期間中に翌週の授業内容を考える、スライドを作り直すなどと授業準備に多くの時間を割いてしまうことがないようにするため、あらかじめシラバスをしっかりと作成していただくことを目的として開催しました。参加者は自身が担当している授業のシラバスを持参し、講師によるシラバス作成時の注意点や学生の動機付けを促すための授業計画の立て方などに関する講演を聞き、他の参加者との意見交換などを行ってブラッシュアップしていき

ました。他の領域の先生と授業に関する意見交換を行うことは、授業を見直す上で参考になります。この時期に研修に参加してシラバスを見直し、締切までにさらに自身でブラッシュアップすると、次年度に向けて入念な準備ができると思います。

参加者のアンケートからは「多様な科目を担当の先生方のお話がきけて参考になりました」「まさにシラバスメ切直前の時期でとても参考になりました」「実際に自分のシラバスを用いて行うことで、ゆっくりと自分のシラバスに向かうことができました」などという声があり、有意義な研修となりました。

(山本 堅一)



写真1 グループで互いのシラバスについてコメントし合う様子

写真2 参加者から質問を受ける講師の様子

## 研究室マネジメント研修を開催

1月27日（金）の14時30分から150分間、高等教育推進機構S講義棟S10講義室にて講師に大阪大学の佐藤浩章先生を招き「研究室マネジメント研修」を開催し、4大学から17名の教職員にご参加いただきました。

本研修は、原則6年以上のキャリアを持つ教員を対象として開催したもので、研究室運営・教育に焦点を当て、多様なメンバーで構成される研究室内でどのように研究室の理念を共有するか、研究室における年間行事をどのように設計するか等について、

実際の研究室運営の事例を基に学び、自身の所属する研究室マネジメントの参考にしていただくことを目的に開催しました。研修は、これまでの研究室教育が近年どのように変化してきたか、研究室教育の特徴やマネジメントのコツなどについての説明と、合間に参加者同士のワークセッションの時間を取りながら進められました。最後は各参加者の所属する研究室のラボ・ポリシーを作成する時間が設けられ、研究室が目指す人材像や身につく能力、年間計画、研究室の特徴、ルールそして欲しい人材などの



ポリシーを作成しました。ラボ・ポリシーを研究室内外に示すことで、所属を希望する学生とのミスマッチを防いで円滑な研究室運営を行うことに資するものと思われます。

参加者のアンケートからは「実際に作業を通し、

ラボマニュアルを作成したのが役に立った」「条件の異なる研究体制をマネジメントされている先生方のお話を聞いた」などという声がありました。

(山本 堅一)



写真1 佐藤先生による講演の様子

写真2 参加者同士で議論する様子

## 英語コミュニケーション研修を開催

2月10日(金)、11日(土)の9時から16時、高等教育推進機構S講義棟S10講義室とS11講義室にて株式会社アルクの講師を招いて「英語コミュニケーション研修」(10日はリスニング編、11日はスピーキング編)を開催し、2日間で5大学から延べ57名の教職員にご参加いただきました。

リスニング研修では「読めばわかるけど聞くとわからない」「つつい日本語で考えてしまう」といった方を対象に、英語を英語で理解できるようになることを目的とし、スピーキング研修では「間違いが怖くて話せない」「とっさに言葉が出てこない」と

いった方を対象に、「何を話すか」「どう話すか」を同時に行うことができるようになることを目的として実施しました。どちらの研修も単なる英語の訓練ではなく、自分に合った学習法を身につけることも目的としています。

参加者のアンケートからは「本研修で今までなぜ聞きとれなかったのか、(連結や脱落など)聞き取るコツや自己学習法を教えてください大変勉強になりました。今までの自己学習法がまちがっていたことに気付いて良かったです。本研修で学んだ学習法でリスニング力等高めたいと思います。」「講義形式



写真1 講師による講義の様子



写真2 ICレコーダーに録音した自分の発音を確認する様子

だと思っていたので、少人数のグループで実践的にスピーキングを学べたのは、とても勉強になった。普段、あまり意識しない文法の基本的な部分を整理できたり、いろいろなレベルの人と話すことで、自

分の課題も客観的にとらえられて、とても良いきっかけになった。モチベーションが上がりました。」などという声があり、とても有意義な研修となりました。(山本 堅一)

## 平成28年度第2回TF研修会を開催

2月14日(火)13時から17時までの4時間、高等教育推進機構S講義棟S5講義室などにて「平成28年度第2回TF研修会」を開催し、学内12学部の69名、他大学1名の大学院生が受講・修了しました。

4時間に及ぶ研修会のプログラムは、表1にあるとおりTF(ティーチング・フェロー)として業務を担当するにあたり必要な知識や心構えを持つための講義と、TFとしてのどのような活動をしていくべきかを考えるアクティブラーニング実習から構成されています。実習では、3つの教室に分かれて他のTF候補生とともにグループワークを行いました。

TFを単にTAの延長と捉えるのではなく、数少ない教育経験を積む機会と捉え就職活動時にいかすため、授業担当教員や受講生に対してどのようなサポートができるのか、この研修を通じてしっかりと考えることができたと思います。

TF制度は昨年度から運用が開始されたばかりの制度で、まだまだ周知徹底されていない部分もあります。より良い制度として運用できるよう、TF研修会の内容や教員への活用方法普及などを検討していきます。

(山本 堅一)

表1 平成28年度第2回TF研修会のプログラム

12:30	受付開始
13:00	挨拶: 高等教育推進機構長(新田 孝彦)
13:05	講演: TFとしての心構え・クラスマネジメント・教育倫理綱領の理解 (細川 敏幸)
13:45	講演: シラバスの構成・読み方(山田 邦雅)
14:15	移動 アクティブラーニング実習(3教室に分かれる) 担当者 S5: 山田 邦雅, S3: 細川 敏幸, S4: 山本 堅一
14:30	グループ学習入門
15:00	グループ討論・全体共有
17:00	修了証授与、終了



写真1 新田理事による開会のことば

写真2 後半のグループワークの様子

## 学位取得を計画的に進めるための プロジェクトマネジメント研修を開催

2月27日(月)の13時から3時間30分間、高等教育推進機構S講義棟S5講義室にて講師に愛媛大学教育・学生支援機構の丸山智子先生を招き、「学位取得を計画的に進めるためのプロジェクトマネジメント研修」を開催し、3大学から25名の大学院生にご参加いただきました。

大学院生が学位を取得するためには、授業単位の取得から学会発表、そして論文執筆などと短期間の間に行うべきことが多くあります。それらを自分で計画的に遂行できれば良いものの、実際はなかなか難しい面もあることから、修士・博士課程の大学院生及び進学予定の学部4年生を対象として本研修を開催しました。

研修は、プロジェクトとは何かを理解して、プロジェクトマネジメントの基礎知識を習得し、学位取得を計画的に進めるためのきっかけとすることを目

的に、主に計画を立てるという部分に焦点を当てて進められました。講師の丸山先生は、実際にプロジェクトマネジメントの手法を活用して学位を取得されているため具体例を挙げながらお話しいただきました。参加者個々人が学位取得に向けた計画を作成し、互いに見せ合いながら自身の計画をブラッシュアップしていくことで、より具体性のある計画を立てることができたものと思われま

す。参加者のアンケートからは「修士論文を書き上げる上で、仕上げなければならない事柄を多く見つけられて非常に良かったです」「研究計画など自分なりにすすめていたが、体系的に学ぶことができた。自分の方法がなぜうまくいかなかったかなども少し気づけた」などという声がありました。

(山本 堅一)



写真1 参加者に助言をして回る丸山先生

写真2 参加者同士で意見交換する様子

## TF振り返り研修会を開催

3月1日(水)13時30分から120分間、高等教育推進機構S講義棟S5講義室、S4講義室にて「TF振り返り研修会」を開催し、テレビ会議システムを使って参加した函館水産学部を含め77名の大学院生及び教員にご参加いただきました。

本研修会は昨年度から運用が始まったTF( Teaching Fellow) 制度のより良い運用を検討す

るため、TFとして業務を担当した大学院生とTFを活用して授業を行った教員にTFとしての業務を振り返ってもらうために実施しました。

研修会ではTFとして業務を担当した上で良かったこと、課題として残ったこと、それから今後挑戦したいことについて各自振り返りシートに記入した後、グループで共有、さらに参加者全員で共有し、



次にTF制度あるいはTFを活用する教員に対する要望を書いて、グループと参加者全員で共有・議論しました。参加者から回収したワークシートは整理・分析し、今後のTF制度のあり方について検討する際の貴重な材料にしたいと思います。なお、昨年度と同研修会で明らかとなった最大の課題（教員への周知不足）に対しては、平成27年度4月にTF制度

の意図や運用方法について整理した資料を全教員に配布したことで、前年度よりは改善したことがうかがえましたが、今回の研修でも課題として挙げられていましたので、引き続き周知方法等を検討する必要があります。

(山本 堅一)



写真1 グループで意見交換する様子（第二会場）



写真2 グループの意見を全体に発表する様子（第一会場）

## 教育評価 EDUCATIONAL EVALUATION

### 2016年度学生調査および卒業生調査を実施しました

本学では、1年生と3年生を対象にして、大学での学修状況や大学生活、教育環境に対する満足度等に関する学生の自己評価を問う学生調査を毎年秋に実施しております。この調査は、2012年度に採択された文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)学士教育課程の質保証」により実施しており、2016年度は5回目の調査になります。10月24日から11月21日までWeb調査を行い、さらに回答期間を12月5日まで延長して実施しました。調査実施に際しては、英語科目授業における調査協力依頼文の配布、各部局にポスターの掲示、教育情報システムおよび電子メールにて通知を行いました。多くの皆様にご協力をいただき感謝いたします。図1の通り、2016年度の回答回収率は、1年生が20.2%、3年生が12.4%となりました。回収率の向上が課題となっていますが、近年の傾向は、1年生は減少、3年生は微増しています。特に今回の

1年生については、大きく減少しました。回収率向上のために、今回の調査に合わせて過去の調査結果を学生へフィードバックしました。具体的には、昨年度の調査結果の一部を掲載した卓上三角POPを作成し、学内の各食堂、自習スペース等に置きました。食堂では、その結果を見て議論を始める学生の様子をうかがうことができましたが、回収率の向上にはつながりませんでした。調査結果からは、本学の教育改革の課題が浮き彫りになるなど、大変有益な情報を得ることができます。経年変化等を議論する上では、安定した回収率を得ることが重要であることは言うまでもありませんので、調査時期や方法に関しましてご意見をいただければ幸いです。

同じく大学間連携共同教育推進事業では、2013年度より卒業生調査も実施しています。大学教育で身につけた能力と社会で求められる能力との関係を明らかにするために、本事業に参加いただいているシ



ンクタンクの方々のご協力で質問項目を設計して調査を続けています。2016年度は、卒業後5、10、15年目を対象にして11月に実施しました。実施学部は昨年から2学部増え、10学部（医学部は学科毎に調査を行ったので、11の学部・学科）で行いました。各学部、同窓会に、多大なるご協力をいただきましたことに感謝いたします。例年と同じく、調査票を卒業生の住所へ送付し、返信用封筒による返送で回答を回収しました。回答回収率は表1の通りです。全体の回収率は23.4%となり、昨年の23.1%とほぼ同じです。回収率を学部別に見ると、12.8%から32.8%まで最大20ポイントの差があります。この差の要因には、男女比率の差、就職先や現在の生活の

満足度の差などが考えられます。

両調査結果につきましては、現在集計分析中です。過去の調査結果につきましてはウェブサイト (<http://8gp.high.hokudai.ac.jp/>) に掲載しておりますのでご参照ください。なお、大学間連携共同教育推進事業は2016年度で終了しましたが、2017年度以降も高等教育推進機構において各調査を継続し、それぞれの調査を接続した多様な分析を行い、報告していくよう準備を進めています（巻頭言を参照してください）。皆様のさらなるご協力とご意見をいただけますようお願いいたします。

(宮本 淳)

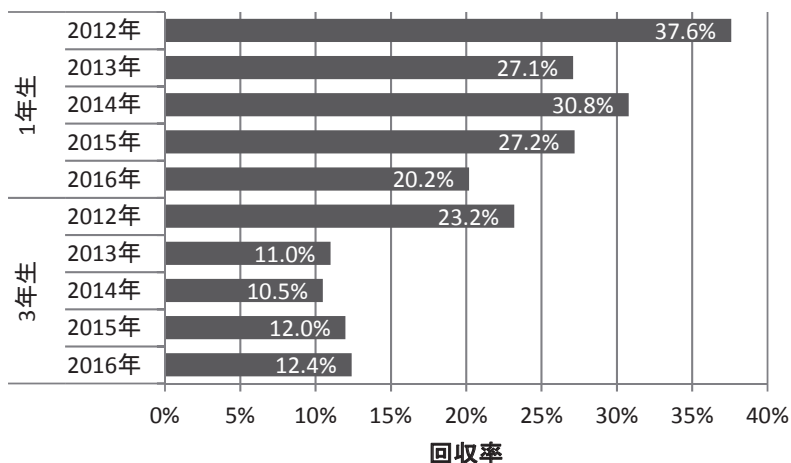


図1 学生調査の回収率経年変化

表1 卒業生調査実施概要

学 部 名	総発送数	宛先不明数	実 送 数	回 答 数	実質回収率
教育学部	91	0	91	13	14.3%
法学部	398	7	391	55	14.1%
経済学部	273	7	266	34	12.8%
医学部医学科	189	16	173	51	29.5%
医学部保健学科	206	59	147	25	17.0%
歯学部	142	17	125	41	32.8%
薬学部	212	16	196	58	29.6%
工学部	729	253	476	129	27.1%
農学部	191	20	171	55	32.2%
獣医学部	92	19	73	21	28.8%
水産学部	353	62	291	84	28.9%
全 体	2,876	476	2,400	566	23.6%

## 2016年度IRシンポジウムと 大学間連携共同教育推進事業シンポジウムが開催されました

本学を代表校として推進してきた大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証」は、平成24年度から28年度までの5年にわたる取り組みでした。本取り組みのまとめとなるシンポジウム「教学IRの未来—大学間連携の成果とこれから—」が、2月16日に連携校のひとつである東京の玉川大学で開催されました。当日は全国の高等教育機関の教職員、教育関係事業の関係者158名の参加がありました(写真1)。シンポジウムは、表1のプログラムの通り、本学からの取り組み紹介から始まりました。続いて、基調講演では開催校である玉川大学の小原芳明学長より「IRと意思決定／ガバナンス」と題し、お話しいただきました。各種分析データが、学長の意思決定や大学のガバナンスに生かされる過程を詳細かつ具体的に学長より直接お話を聞ける貴重な機会となりました。最後に、大阪府立大学の高橋哲也氏より大学IRコンソーシアムの活動紹介がありました。本事業終了後は、その取り組みを大学IRコンソーシアムへ引き継ぎ、日本のIR活動のさらなる発展を

目指して活動を続けます。講演の後、8つの連携校の取り組みを中心に、各大学で進めてきた教学IR活動の詳細をポスター発表の形式で紹介しました。どのポスターの前でも非常に活発な議論が交わされました(写真2)。終了時間を過ぎてても議論は続き、参加者にとっては時間をかけて議論をすることができ、有意義な時間となりました。

続いて2月28日には、金沢市内で「大学間連携共同教育推進事業選定取組全国シンポジウムin 金沢～その成果と今後～」が開催されました。平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に選定された全国49件の関係者が集まり、10件の事例報告とポスター発表により、それぞれの取り組みの成果を報告しました。本学を代表校とした既述の取り組みの成果についてもポスターで報告しました。多くの事業が今後も継続する体制を整えていることが印象的でしたが、そこへ至る苦労などの生の声を聞くことができ、議論を交わす中で各事業間の連携も深まりました。

(宮本 淳)



写真1 シンポジウムの様子



写真2 ポスター発表の様子

表1 2016年度IRシンポジウムプログラム

13:00-13:40	「取り組み紹介, 連携事業の歩み」	細川敏幸 宮本 淳	北海道大学 高等教育推進機構 教授 北海道大学 高等教育推進機構 特任准教授
13:40-14:30	基調講演 「IRと意思決定／ガバナンス」	小原芳明	玉川大学 学長
14:30-15:00	「連携事業から 大学IRコンソーシアムへ」	高橋哲也	大阪府立大学 学長補佐・高等教育推進機構副機構長／ 大学IRコンソーシアム代表会員校運営委員
15:30-16:50	ポスター発表		

## 地域社会連携 Community Relations

### 平成29年度全学公開講座のテーマ・講師が決定

平成29年度の「北海道大学公開講座（全学企画）」（全学公開講座）は、7月3日（月）から24日（月）に実施されます。今年1月から2月にかけて開催された高等教育研究専門委員会公開講座実施部会（部会長＝辻康夫・法学研究科教授）での検討を経て、例年どおり、全学から選ばれた8名の教員が連続で講演することになりました（表1）。

今年のテーマは「「非常識」が照らし出す私たちの未来」。昨年来、世界では、米国大統領選や英国のEU離脱の国民投票など、大方の常識や予想に反する出来事が次々に起こっています。今までのやり方では対処できない矛盾や困難が至るところで生じているけれども変革の方向は見通せない、という閉塞感が、「非常識」と受け取られる形で噴出している感があります。その一方で歴史をふりかえってみれば、常識にとらわれない発想や発見こそが、次の時代を切り開いてきたことも事実です。そこで今回

の講座では、さまざまな分野における「非常識」を糸口として、そこに社会のどんな変化が現れているのか、また常識をくつがえすような技術革新がどのように起こりつつあり、それらが私たちのくらしや仕事をいかに変化させようとしているのか、といった話題を、8回の講義を通じて取り上げます。

本公開講座は、平成27年度から2回分の講義を祝日（海の日）に開催していますが、今年も7月17日（月・祝）午後に第5回と第6回の講義を行います。会場は、17日が学术交流会館小講堂、それ以外の日には情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室です。

定員100名。受講料は5000円（特定回の受講を希望する場合、1回につき1500円で受講可）。申込みは6月1日（木）から、学務部学務企画課総務担当（教育支援）（電話 011-706-5567）で受け付けます。

（三上 直之）

表1 平成29年度北海道大学公開講座（全学企画）

テーマ：「非常識」が照らし出す私たちの未来

日 程	講 義 題 目	担 当 講 師
第1回 7月3日（月） 18：30～20：30	触媒で不可能を可能にする	触媒科学研究所 福岡 淳 教授
第2回 7月6日（木） 18：30～20：30	クマに学ぶ～草食を選んだ肉食獣～	獣医学研究院 坪田 敏男 教授
第3回 7月10日（月） 18：30～20：30	「コンピテンス基盤型教育」は日本の教育改革の劇薬となり得るか？	高等教育推進機構 鈴木 誠 教授
第4回 7月13日（木） 18：30～20：30	統計学によると…の非常識	情報基盤センター 水田 正弘 教授
第5回 13：00～14：45	「デモクラシー」の常識を問い直す	公共政策学連携研究部 空井 護 教授
第6回 7月17日（月・祝） 15：15～17：00	正常細胞ががん細胞を駆逐する！ －世界初のがん予防薬開発を目指して－	遺伝子病制御研究所 藤田 恭之 教授
第7回 7月20日（木） 18：30～20：30	現代の金融政策	公共政策学連携研究部 代田豊一郎 准教授
第8回 7月24日（月） 18：30～20：30	流動化時代の人間関係	文学研究科 結城 雅樹 教授

学生支援 STUDENT SUPPORT

## 平成29年度夏季休暇における 「全学インターンシップ」の実施に向けて

キャリアセンターと共同で、全学教育科目として「全学インターンシップA・B」を開講していますが、今年度についても夏季休暇を中心とした実施に向けてスタートしています。おおよそのスケジュールは表1のとおりです。

まず、インターンシップ希望学生に対する意識の醸成を図るため、4月24日にキャリアセンターと共催で「インターンシップではじめる!! 就活準備ガイダンス」を開催しました。インターンシップが就活や就職後の仕事とどのようにつながっているのかなどについて、インターンシップ経験のある本学卒業生や採用コンサルタントをお招きし実施しました。具体的な内容は表2のとおりです。

さらに、5月8日(クラーク会館講堂)及び5月10日(工学部オープンホール)で「全学インターンシップ説明会」を開催します。本説明会では、まず昨年度に全学インターンシップに参加した学生にその体験談をお話いただき、参加しようと思っている学生のモチベーションの向上を図ります。その後、担当教員である高等教育推進機構の亀野淳准教授から制度の概要、スケジュール、手続き、心構えなど

について説明をし、キャリアセンターの川上あきインターンシップ・マネージャーから具体的な手続きについて説明を行う予定です。

また、今年度からの新しい試みとして、5月25日、27日、7月19日には「インターンシッププレ研修」と称して、インターンシップ先企業の選び方やグループワーク、企業・業界研究の実践などを予定しています。

その後、6～7月にかけて、参加希望学生と企業等のマッチングを行い、参加が決まった学生に対しては7月4日、5日、11日、12日(函館キャンパスは別途実施予定)に講義形式の事前研修を実施し、その後、1名10分あたりの個人面談も実施する予定です。

この事前研修や個人面談では、インターンシップ先の企業・団体や業界等の研究を行うとともに、インターンシップを通じて検証したい仮説をインターンシップ前に設定し、インターンシップを通じてその検証を行う予定です。同時に、学生はインターンシップ先の企業等に対して連絡を取り、札幌近辺の場合は事前に訪問し、打ち合わせを行っています。仮説の検証や学生自らの連絡・打ち合わせの実施

表1 平成29年度 全学インターンシップ スケジュール

4月24日(月)	「インターンシップではじめる!!就活準備ガイダンス」
4月中旬～5月31日(水)	受入申込登録(企業)
5月8日(月), 10日(水)	全学インターンシップ説明会
5月8日(月)～	参加申込登録(学生)
5月25日(木)	「インターンシッププレ研修①」
5月27日(土)	「インターンシッププレ研修②」
6月5日(月)～13日(火)	参加希望企業名登録(学生)
6月16日(金)	第1次マッチング結果の通知
6月26日(月)～29日(木)	先着マッチング(第1次マッチングがされなかった学生と企業のマッチング)
7月4日(火), 5日(水)	事前研修①実施
7月11日(火), 12日(水)	事前研修②実施
7月中旬または下旬	事前研修①②(函館キャンパス)実施
7月19日(水)	「インターンシッププレ研修③」
7月中旬～8月上旬	個人面談(学生と担当教員)
夏季休暇期間	インターンシップ参加(学生)
インターンシップ終了後1ヶ月以内	研修成果レポートの提出(学生)
10月下旬	「インターンシップ成果発表共有会」(学生, 企業)



は、1～2週間という短期間のインターンシップの効果をもっと高めるため、北大独自の方式となっています。

これらを経て、参加学生はそれぞれの企業・団体を夏季休暇中にインターンシップ実習を行う予定です。

インターンシップ終了後には、1ヶ月以内に研修成果レポートを各自提出するとともに、10月には、参加学生の「インターンシップ成果発表共有会」を開催し、受入企業にも参加していただき、インターンシップの成果を共有する予定です。

(亀野 淳)

表2 「インターンシップではじめる!! 就活準備ガイダンス」プログラム

日 時：平成29年4月24日(月) 18:20～20:40								
場 所：学術交流会館								
対 象：全学年(主に学部3年生、修士1年生など2019年3月卒業見込みの学生)								
<b>◆ 内容 ◆</b>								
<p><b>【第1部】</b> 北大生のインターンシップ事情 民間企業、官公庁、公募型、大学経由型…北大生のインターンシップ事情について簡単にポイントを解説します。</p>								
<p><b>【第2部】</b> インターンシップと就職活動リアル①～教員とインターン経験若手社会人OBや在学生在が語る!!～ インターンシップに行ってもうどうだった?どんな効果があるんだろう。どう今後の自分に活きるのか。実際に北大経由でインターンシップに行った社会で活躍する先輩から、リアルな声を語っていただきます。</p> <p>* 卒業生・在校生</p> <table border="0"> <tr> <td>・北海道エア・ウォーター株式会社</td> <td>竹川 雄大 氏 (2015年3月文学部卒業)</td> </tr> <tr> <td>・株式会社リクルートキャリア</td> <td>遠山 祐基 氏 (2016年3月経済学部卒業)</td> </tr> <tr> <td>・北海道大学大学院 情報科学研究科2年</td> <td>本橋 諄平 氏 (2018年3月修了見込み)</td> </tr> </table> <p>* インタビュアー：インターンシップ担当教員 亀野 淳 准教授</p>	・北海道エア・ウォーター株式会社	竹川 雄大 氏 (2015年3月文学部卒業)	・株式会社リクルートキャリア	遠山 祐基 氏 (2016年3月経済学部卒業)	・北海道大学大学院 情報科学研究科2年	本橋 諄平 氏 (2018年3月修了見込み)		
・北海道エア・ウォーター株式会社	竹川 雄大 氏 (2015年3月文学部卒業)							
・株式会社リクルートキャリア	遠山 祐基 氏 (2016年3月経済学部卒業)							
・北海道大学大学院 情報科学研究科2年	本橋 諄平 氏 (2018年3月修了見込み)							
<p><b>【第3部】</b> インターンシップと就職活動リアル②～企業の採用コンサルタントが集結!!～ なかなかわからない企業側の思惑。企業がインターンシップを行う目的は? 実際、就活に有利・不利などあるのか…多くの企業の採用活動をコンサルする企業が集結し、企業の生の声をお届けします。</p> <p>* パネリスト</p> <table border="0"> <tr> <td>株式会社ジェイ・ブロード 北海道支社長</td> <td>前田 健郎 氏 (就職Walker Net)</td> </tr> <tr> <td>株式会社ディスコ キャリタス営業課課長</td> <td>松岡 孝史 氏 (キャリタス就活)</td> </tr> <tr> <td>株式会社マイナビ 総合企画営業統括部統括部長</td> <td>池本 博則 氏 (マイナビ)</td> </tr> <tr> <td>株式会社リクルートキャリア 東日本地域活性営業部部長</td> <td>平澤 義博 氏 (リクナビ)</td> </tr> </table>	株式会社ジェイ・ブロード 北海道支社長	前田 健郎 氏 (就職Walker Net)	株式会社ディスコ キャリタス営業課課長	松岡 孝史 氏 (キャリタス就活)	株式会社マイナビ 総合企画営業統括部統括部長	池本 博則 氏 (マイナビ)	株式会社リクルートキャリア 東日本地域活性営業部部長	平澤 義博 氏 (リクナビ)
株式会社ジェイ・ブロード 北海道支社長	前田 健郎 氏 (就職Walker Net)							
株式会社ディスコ キャリタス営業課課長	松岡 孝史 氏 (キャリタス就活)							
株式会社マイナビ 総合企画営業統括部統括部長	池本 博則 氏 (マイナビ)							
株式会社リクルートキャリア 東日本地域活性営業部部長	平澤 義博 氏 (リクナビ)							

## 経済同友会と連携した長期インターンシッププログラムの実施

平成28年度に引き続き今年度も公益社団法人経済同友会が実施する「望ましいインターンシップの枠組み」(<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2015/160328a.html>)に本学も趣旨に賛同し、参加することになりました。

本インターンシップは経済同友会が提唱した学部1, 2年生からの長期インターンシップです。つまり、最近の多くのインターンシップが1週間程度の短期のものが中心であり、また、参加学生も就職を次年度に控えた学部3年生や修士1年生が大部分を占める中でより教育的要素を強くしたものです。

本学からは、昨年度は7社8名の学生派遣でしたが、今年度は野村證券、三井住友銀行各3名、三菱ケミカル、花王、JFEスチール、デュポン、大林組、第一生命、日本航空、日本板硝子各1名、計10社、14名の学生を派遣することとなりました。

5月8日及び10日に開催される「全学インターンシップ説明会」等を通じ学部1, 2年生に周知し、5月18日まで参加希望学生の募集を行います。

その後、書類審査と面接を行い、上記の企業への派遣学生を決定する予定です。

(亀野 淳)

科学技術コミュニケーション オープンエデュケーションセンター CoSTEP部門

2016修了式公開シンポジウム報告

「手のひらから宇宙まで ～電波が創発するコミュニケーション，そしてアート～」

2017年3月11日、CoSTEPの12期修了式に合わせて、公開シンポジウム「手のひらから宇宙まで ～電波が創発するコミュニケーション，そしてアート～」をフロンティア応用科学研究棟 鈴木章ホールにて開催しました。パネリストは久保田晃弘さん（多摩美術大学教授）と大鐘武雄さん（北海道大学大学院情報科学研究科教授），原島博さん（東京大学名誉教授），司会はCoSTEPの朴炫貞が務めました。3月11日に行われていることもあり、身近な科学技術である「電波」を中心に、科学技術の影響やそれを用いて変化した生活を話し合い、今後どのように接して行けば良いかを考える場となりました。



写真1 修了式公開シンポジウムのチラシデザイン

ほのかにライトアップされた会場の左右の壁には、一本の波形が投影されており、登壇者のマイクの声に反応して形が常に変化していました。シンポジウムのテーマである「電波」が表現された空間で、修了生をはじめ105名の方々が熱心にゲストの話に耳を傾けました。



写真2 会場の様子

宇宙からの芸術

久保田さんは宇宙での芸術を実現するために、「ARTSAT：衛星芸術プロジェクト」で、10センチ角のキューブ型の芸術衛星INVADERを2014年に

打ち上げました。ARTSATは宇宙からの情報を詩や音楽で送信することで、人間の想像力や意識を拡大することを目指しているアートプロジェクトです。

写真3 久保田さんの話題提供

ARTSATの2号機DESPATCHは、3Dプリンタで作られた渦巻き型の彫刻作品で、深宇宙から詩を送信する芸術実験を行いました。DESPATCHからの電波は世界中のアマチュア無線愛好家が協力して受信し、最終的には地球から470万キロ離れた彼方からの電波を受信することに成功しました。さらに今年、ARTSATはSIAF（札幌国際芸術祭）ラボと共同で、札幌のモエレ沼公園から小型のコンピュータを搭載した気球の打ち上げを行ないました。大地の彫刻としての公園を、データで宇宙と繋ぐと同時に、気球にプログラムコードを送信することで、宇宙との即興演奏（tele-coding）を実現しようとしています。

久保田さんは、アマチュアはプロの対義語というネガティブな意味ではなく、愛好家というポジティブな意味で使うべきだと主張しました。久保田さんは、衛星や宇宙の人文学的な意味について、CoSTEPのようにいろいろなジャンルの人と議論していくことを、札幌国際芸術祭でも行いたいと考えています。

無線通信の仕組みについてちょっとだけ理解した気持ちになれそうなそんな感じのお話...

次に、科学技術の研究者として大鐘さんの話題提供が続きました。大鐘さんは、アンペールの法則をはじめ、周期検波による電波の検出、セルラー方式、

5Gと呼ばれる第五世代の携帯電話や、大規模MIMOやTHP方式と呼ばれる通信方式、さらにIoTやD2D, M2Mといった通信技術を紹介しました。

大鐘さんはイラストで、電波の波長を人間の身長に、アンテナをドア(窓)に例えて、難解な無線技術をイメージが浮かぶように工夫を凝

写真4 大鐘さんの話題提供

らして説明しました。しかしながら、大鐘さんは「わかりやすさと厳密さは両立しない」として、自分の解説を「厳密さに欠ける」ものであると自己批判的に俎上に載せます。「わかりやすさを追求するあまり省くと間違った情報を伝える可能性がある」と、自ら直面したジレンマに触れながら「わかりやすい説明は科学技術コミュニケーターに期待する」とその意義と重要性を強調しました。

### 電波と人、電波と私

原島さんはコミュニケーション工学が専門で、顔学会の設立者として大変著名です。原島さんは、のろし、旗振り、腕木通信から、電話、無線電信を経てスマートフォンに至るまで、通信技術の歴史を概観しました。

写真5 原島さんの話題提供

現在は「いつでも、どこでも、誰とでも」瞬時にコミュニケーションできる便利な時代になりました。しかし便利になると、それを前提とした人間社会や社会システムが作られるため、「便利さは決して仕事や生活を楽にしない」と原島さんは断言します。さらに、SNSのようなメディアは麻薬のようなものであり、「匿顔」による快適なコミュニケーションに人々は忙殺されている、として、情報社会は本当に人を幸せにするのか、と疑問を投げかけました。

### 電波を感じる空間でのパネルディスカッション

休憩をはさんでアーティストの小町谷圭さんによ



写真6(左) 風船に取り付けられたカメラから、会場の様子が送信されている



写真7(右) 風船には中継器に取り付けられているカメラ

るインスタレーションが披露されました。会場の座席に置かれているFMラジオの周波数を合わせると、会場後方に浮かんでいる風船の発信機が放送している



写真8 ラジオの周波数をあわせる来場者

音楽や、3人のゲストの話がチャンネルごと流れる仕掛けになっています。見えない電波を、ARTSATで用いる手法によって体験することができました。

会場全体で電波を感じた後は、パネルディスカッションで、参加者からの質問カードをもとに、議論を進めました。

### Q. 技術者とユーザーの立場の違いとは？

久保田さんと大鐘さん両者とも、「ユーザーは作り手の意図をはるかに越えた使い方をする」と意見が一致しました。その上で久保田さんは、ユーザーは分解したり改造できないものにNOを突きつけることで、技術に踊らされることはなくなると主張しました。

原島さんは、技術が上がるとブラックボックス化するという問題点を指摘します。しかし今後3Dプリンターの普及により、工場でしか作れないものでも個人で作るパーソナルな時代になると予測し、「パーソナルは最先端である」と提唱しました。また久保田さんは、ブラック



写真9 パネルディスカッションを行っている登壇者3人



ボックス化しやすいのがビジネスとミリタリーであると危惧しており、ブラックボックス化を防ぐためにも、オープンにしてユーザーの参加度を高める必要があると説きました。そのためにも、アマチュア＝愛好家の重要性を力説しました。

Q. アートとサイエンスの関係とは？

久保田さんはアートとサイエンスには「遠くへ行きたい、まだ見ていないものを見る」という共通点があると指摘します。「科学や芸術の力は、想像力と経験の幅を広げるものですが、方法論は異なる。アートはマジョリティに対する疑問から出発し、科学とアートは違うからこそコラボレーションが可能」と自説を展開しました。大鐘さんにとってアートは憧れであり、自分のやっていることは泥臭いものとしながらも「自分も頑張ればアートっぽくなるかな」と二人の話に刺激を受けている様子でした。

原島さんは、平賀源内をメディアアーティストだと評価し、サイエンスはアートの的に研究して未来を予感させることが重要だと明言します。「アートもテクノロジーも表現なので、工学部の基礎科目にはアートが必要」と新しいカリキュラムの考え方を提案しました。久保田さんも「工学部で美術史を教えるのは意味がある」と原島さんの提案に賛成しました。



写真10 パネルディスカッションを行っている登壇者3人と司会

Q. これからの未来とどう向き合うか？

大鐘さんは、未来は全くわからないが「だからこ

そ面白い」と今後の展開に期待を寄せます。久保田さんは、アラン・ケイのように未来を發明するという考えは大変傲慢であると一刀両断し、ヒントは過去の中にある、と歴史を学ぶことの重要性を強調しました。原島さんは、現在は過去と未来の架け橋なので、外から自分を見る視点を持つように、視点を相対化することで未来が見えてくる、とアドバイスしました。

閉会の挨拶で新田孝彦理事・副学長は、中毒患者は中毒だと思わないようにシステムに組み込まれると、感情も枯れてしまうことを例に

写真11 閉会の挨拶を述べる新田孝彦理事・副学長

して、今回のシンポジウムは科学技術と社会の関係について考え、活動するCoSTEPにとっても示唆に富むお話だったとまとめ、幕を閉じました。

参加者のアンケートからは、アートとサイエンスの関係に関する可能性が感じられたことや、技術を前提にする社会が必ずしも幸せではないこと、自分ごととしてサイエンスもアートも考える必要がある点、シンポジウムと共に行われていた実験の面白さ、今後の科学技術コミュニケーションへの必要性を感じたことなど、様々なご意見をいただきました。好評やご指摘を含め、今後科学技術コミュニケーションの活動に活かしていければと思います。特に2017年には札幌国際芸術祭が開催されます。地域社会と大学、アートとサイエンスをつなぐ活動をテーマに行うCoSTEPの活動に、どうぞご期待ください。

(朴炫貞)

日誌 EVENTS, December-March

12月

- 1日 (会議) 新渡戸カレッジ第5回幹事会
- 2日 (会議) 第4回総合教育教務・学生専門委員会 (持回り)
- 2日 (行事) 第11回新渡戸カレッジ講演会
- 6日 (会議) 入学者選抜委員会

- 6日 (行事) AO入試 (大学入試センター試験を課さない学部・学科)・帰国子女入試合格発表
- 6日 (行事) 新渡戸スクール上級プログラム講演会
- 8日 (会議) 第4回学生委員会
- 9日 (会議) 第4回高等教育推進機構学務委員会



- (持回り)
- 9日 (会議) 第2回新渡戸スクール運営会議
- 9日 (会議) 北海道地区大学体育協議会第1回協議員会  
北海道地区大学体育大会第1回実行委員会  
北海道地区大学体育大会競技種目分担大学第1回打合せ会議
- 9日 (研修) ワークショップ「学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくり」(高等教育研修センター)
- 10日 (行事) 新渡戸カレッジ第4回フェローゼミ
- 11日 (研修) 第92回サイエンス・カフェ札幌「極北に針路をとれ～北極海航路が拓く新時代～」(CoSTEP)
- 11日 (行事) 第4回 GO GLOBAL JAPAN EXPO ブース出展 (東北大学)
- 12日 (会議) 第8回新渡戸カレッジ評価委員会
- 12日・17日 (研修) 英語によるアカデミック・プレゼンテーションの基礎 (前編・後編)  
(高等教育研修センター)
- 13日 (会議) 第5回高等教育推進機構運営委員会
- 13日 (会議) 第7回ELMS定例会議
- 13日 (行事) 新渡戸カレッジ第4回グループ・ミーティング (大西フェロー)
- 14日 (行事) 第12回新渡戸カレッジ講演会
- 15日 (会議) 第9回新渡戸カレッジ校長諮問委員会
- 15日 (研修) 新渡戸カレッジ主催国際FD研修
- 16日 (会議) 全学教育専門委員会成績評価結果検討専門部会
- 17日 (研修) シラバスのブラッシュアップ研修 (高等教育研修センター)
- 19日 (会議) 第6回大学IRコンソーシアム運営委員会 (TV)
- 20日 (会議) 第8回教育改革室会議
- 20日 (会議) 第10回オープンエデュケーションセンター連絡会議
- 21日～1月5日 (会議) 第6回高等教育推進機構運営委員会 (持回り)
- 22日 (会議) 第1回オープンエデュケーション専門委員会教育情報システム専門部会
- 26日～1月4日 (行事) 私費外国人留学生入試願書受付

## ■ 1月

- 7日 (行事) 新渡戸カレッジ第5回フェローゼ

- ミ・全体発表会
- 10日 (会議) 第9回新渡戸カレッジ評価委員会
- 12日 (会議) 第10回新渡戸カレッジ校長諮問委員会
- 13日 (会議) 第1回高等教育研究専門委員会公開講座 (全学企画) 実施部会
- 14日～15日 (試験) 大学入試センター試験
- 14日 (行事) ワークショップ「光る細胞カプセルをつくろう！」(青少年科学館冬の特別展2017) (CoSTEP)
- 16日 (会議) 第8回ELMS定例会議
- 16日 (会議) 第7回大学IRコンソーシアム運営委員会 (TV)
- 16日 (会議) 新渡戸カレッジ第3回教務専門委員会
- 17日 (会議) 第11回オープンエデュケーションセンター連絡会議
- 18日 (会議) 第7回全学教育専門委員会
- 20日 (会議) 第11回新渡戸カレッジ校長諮問委員会
- 20日 (会議) 学術誌「科学技術コミュニケーション (JJSC)」編集委員会 (CoSTEP)
- 21日 (行事) 新渡戸カレッジ第3回キャリアセミナー
- 21日～22日 (行事) 新渡戸カレッジ第4回対話プログラム
- 24日 (会議) 第1回オープンエデュケーション専門委員会科学技術コミュニケーション教育研究専門部会
- 27日 (研修) 研究室マネジメント研修 (高等教育研修センター)
- 29日 (行事) 対話劇「私の仕事を決めるのは誰? ～裁判劇を通じて人工知能を用いた人事評価の是非を考える～」 (CoSTEP)

## ■ 2月

- 1日 (会議) 第1回高等教育研修センター共同利用運営委員会
- 3日 (会議) 第7回高等教育推進機構運営委員会
- 3日～12日 (行事) 「札幌可視化プロジェクト」実習成果発表展「 」でみる さっぽろ (CoSTEP)
- 5日 (行事) オノマトペ(擬音語と擬態語)を「音」と「形」で表現するアートワークショップ (CoSTEP)

- 7日 (会議) 入学者選抜委員会
- 7日 (行事) AO入試 (センター試験を課す学部・学科) 合格発表
- 7日 (行事) 学部・学科等移行ガイダンス
- 7日 (研修) 第7回「科学技術コミュニケーション (JJSC)」合評会 (CoSTEP)
- 8日 (行事) 学部・学科等紹介
- 9日 (会議) 第1回高等教育研修専門委員会
- 10日 (会議) 第10回新渡戸カレッジ評価委員会
- 10日 (行事) 第14回創成シンポジウム「科学と芸術のあいだ アートが北大を変える」(共催) (CoSTEP)
- 10日・11日 (研修) 英語コミュニケーション研修 (高等教育研修センター)
- 11日 (会議) 2016年度新渡戸カレッジ振り返り会
- 13日 (会議) 第5回総合教育教務・学生専門委員会 (持回り)
- 14日 (会議) 第9回ELMS定例会議
- 14日 (研修) 第2回北海道大学TF研修会
- 16日 (試験) 私費外国人留学生入試第2次選考日
- 16日 (会議) 第8回全学教育専門委員会
- 16日 (会議) 大学間連携共同教育推進事業外部評価委員会 (IR)
- 16日 (行事) 大学間連携共同教育推進事業IRシンポジウム (IR)
- 17日 (会議) 新渡戸カレッジ第4回教務専門委員会
- 19日 (行事) 第93回サイエンス・カフェ札幌「石の中の銀河 ～太陽系の記憶は地球深部に眠る～」(CoSTEP)
- 20日 (会議) 第8回大学IRコンソーシアム運営委員会 (TV)
- 20日～21日 (会議) GGJ東日本第一ブロック会議
- 21日 (会議) 第9回教育改革室会議
- 21日 (会議) 第2回高等教育研究専門委員会
- 21日 (会議) 第12回オープンエデュケーションセンター連絡会議
- 22日～24日 (会議) 第4回大学院共通教育専門委員会 (持回り)
- 25日～26日 (試験) 一般入試 (前期日程)
- 27日 (研修) 学位取得を計画的に進めるためのプロジェクトマネジメント研修 (高等教育研修センター)
- 28日 (会議) 第5回高等教育推進機構学務委員会
- 28日 (会議) 第3回総合教育移行専門委員会
- 28日 (行事) キャリアイベント「理系の未来はミ

- ステリー!?～可能性は無限大～」(CoSTEP)
- 28日 (行事) 大学間連携共同教育推進事業シンポジウムin金沢 (IR)

## ■ 3月

- 1日～9日 (会議) 第8回高等教育推進機構運営委員会 (持回り)
- 1日 (研修) TF振り返り研修会
- 2日 (行事) 新渡戸スクールFD第2ステージ
- 3日 (会議) クラス担任幹事会
- 3日 (会議) 第4回新渡戸スクール教務専門委員会
- 3日～14日 (会議) 第3回教務情報システム専門委員会 (持回り)
- 5日 (行事) 第24回三省堂サイエンスカフェ in 札幌「ロボットとICTが導く農業の未来 ～現場の知恵を技術に変えて～」(共催)
- 7日 (会議) 第87回教務委員会
- 7日 (会議) 入学者選抜委員会
- 7日 (会議) 新渡戸カレッジ第3回運営会議
- 8日 (行事) 一般入試 (前期日程)・私費外国人留学生入試合格発表
- 8日 (会議) 第2回オープンエデュケーション専門委員会
- 9日 (会議) 第3回新渡戸スクール運営会議
- 9日～17日 (会議) 第6回総合教育教務・学生専門委員会 (持回り)
- 11日 (行事) CoSTEP修了式, 成果発表会
- 12日 (試験) 一般入試 (後期日程)
- 13日 (会議) 大学IRコンソーシアム臨時総会 (甲南大学)
- 13日 (会議) GGJ第2回幹事校会議 (立命館大学東京キャンパス)
- 14日 (会議) 第10回教育改革室会議
- 15日 (会議) 第9回高等教育推進機構運営委員会
- 15日 (会議) 第3回全学教育専門委員会授業評価専門部会
- 15日 (会議) 第10回ELMS定例会議
- 15日 (行事) 新渡戸スクール募集説明会
- 16日 (会議) クラス担任連絡会
- 17日 (会議) 第13回オープンエデュケーションセンター連絡会議
- 18日 (行事) 体験型展示「藻なんですか? ソウなんです! ～北海道の植物プランク

	トンを見てみよう〜」(共催)		討専門部会
21日(会議)	入学者選抜委員会	24日(行事)	学位記授与式(含む新渡戸カレッジ 修了書授与)(函館キャンパス)
21日(会議)	第6回高等教育推進機構学務委員会	25日(行事)	科学コミュニケーターと意見交換会
21日(会議)	第4回総合教育移行専門委員会	27日(行事)	2017年度CoSTEP受講生募集説明会 (東京会場)
21日(行事)	一般入試(後期日程)合格発表	29日(研修)	講演会「日本語による授業から英語 による授業へ」(高等教育研修セン ター)
21日(行事)	新渡戸スクール修了式	30日~31日(行事)	新渡戸カレッジ入校説明会
22日(会議)	第5回学生委員会		
23日(行事)	学位記授与式(含む新渡戸カレッジ 修了書授与)(札幌キャンパス)		
23日(行事)	新渡戸カレッジ修了祝賀会及びフェ ロー謝恩会		
24日(会議)	全学教育専門委員会成績評価結果検		

## 行事予定 SCHEDULE, April-August

### ◆4月

- 3(月)~5(水)  
新入生定期健康診断
- 6(木) 新入生オリエンテーション及び総合教育  
部ガイダンス(学部・学科等移行ガイダ  
ンス, 学部ガイダンス)
- 7(金) 入学式
- 10(月) 履修調整・登録に関するガイダンス及び  
教育情報システム(ELMS)利用に関す  
るガイダンス
- 10(月)~11(火)  
日本学生支援機構・新規奨学生募集説明  
会(2年次以上は, 12(水)に実施)
- 11(火) 第1学期授業開始日
- 11(火)~17(月)  
抽選科目の申込期間(Web入力)
- 19(水) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 19(水)~21(金)  
日本学生支援機構・新規奨学生申請書提  
出期間(2年次以上は, 24(月)~25(火))
- 20(木)~26(水)  
履修登録(Web入力)

### ◆5月

- 9(火)~10(水)  
履修時間割確認期間
- 15(月) 6講時授業実施開始

### ◆6月

- 2(金)~4(日)  
大学祭[期間中休講]
- 12(月)~14(水)  
履修登録科目の取消期間(Web)
- 17(土) TOEFL-ITP試験(英語Ⅱ)
- 19(月)~21(水)  
自由設計科目登録変更期間
- 22(木) 6講時授業実施終了

### ◆7月

- 25(火) 火曜日の授業終了日
- 31(月) 月曜日の授業終了日

### ◆8月

- 1(火) 初習外国語統一試験日(通常授業は休講)
- 2(水) 水曜日の授業終了日
- 3(木) 木曜日の授業終了日
- 4(金) 金曜日の授業終了日(第1学期授業終了  
日)
- 6(日)~7(月)  
オープンキャンパス
- 7(月)~9/26(火)  
夏季休業日
- 14(月) 成績報告締切(非常勤[帳票])
- 17(木) 正午  
成績報告締切(常勤[Web入力])
- 24(木) 全学教育科目成績Web上公開
- 24(木)~25(金)  
全学教育科目成績確認及び成績評価に関  
する申立て期間

**ニュースレター 2017, No.108 目次**

(巻頭言) IR事業の新展開 …………… 細川 敏幸 1	研究室マネジメント研修を開催 …………… 16
ラーニングサポート室2016年度活動報告 …………… 3	英語コミュニケーション研修を開催 …………… 17
ピアサポート室2016年度活動報告 一学生ならではの視点でよりよい学生支援を— …………… 5	平成28年度第2回TF研修会を開催 …………… 18
学務委員会報告 …………… 6	学位取得を計画的に進めるための プロジェクトマネジメント研修を開催 …………… 19
平成29年度 全学教育部・総合教育部行事予定表 …………… 8	TF振り返り研修会を開催 …………… 19
平成28/27年度(第1学期)全学教育科目履修者数 対比表 …………… 9	2016年度 学生調査および卒業生調査を実施しました …… 20
平成28/27年度(第2学期)全学教育科目履修者数 対比表 …………… 10	2016年度IRシンポジウムと大学間連携共同教育 推進事業シンポジウムが開催されました …… 22
平成28年度北海道地区大学SD研修 「大学職員セミナー」を開催 …………… 11	平成29年度全学公開講座のテーマ・講師が決定 …… 23
講演会「授業準備と運営」を開催 …………… 12	平成29年度夏季休暇における 「全学インターンシップ」の実施に向けて …… 24
第31回北海道大学教育ワークショップを開催 …… 12	経済同友会と連携した長期インターンシッププログラ ムの実施 …………… 25
学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと 場づくりワークショップを開催 …………… 14	2016修了式公開シンポジウム報告 「手のひらから宇宙まで ~電波が創発するコミュ ニケーション, そしてアート~」 …………… 26
The basic guidance to academic presentations in English …………… 14	日誌 …………… 28
シラバスのブラッシュアップ研修を開催 …………… 16	行事予定 …………… 31
	目次・編集後記 …………… 32

**編集後記**

今号に研究室マネジメント研修の記事が掲載されています。最近ではブラック企業ならぬブラック研究室という言葉もささやかれており、研究室運営に関する事柄に今後ますます目が向けられていくべきでしょう。研究室での活動では、研究成果へのプレッシャー、キャリアへの不安など、不適切な運営・複雑な人間関係につながる要素が多くあり、そこでは指導教員のマネジメント力が大きく問われます。

よい成果はよい環境から。マネジメント力の育成によって研究環境の整備が進み、優れた研究成果・研究者が生まれてくることを期待します。

(海苔)

**ニュースレター**

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)  
通算 **第108号**

発行日： 2017年4月30日  
発行元： 北海道大学高等教育推進機構  
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
編集委員：◎細川敏幸・鈴木誠・飯田直弘・岩間徳兼  
ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで  
電話 (011)706-7514, FAX (011)706-7521  
インターネットホームページ：  
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html>



1. 講義担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員1人につき、責任部局は5～6コマ、準責任部局は6コマ）に計上）

授業科目	部局	文		教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水		
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専		非	
教養科目	主題別科目	思索と言語	13																							
		〃（論文指導）	6																							
		歴史の視座	11				1		1																	
		〃（論文指導）	5				1		1																	
		芸術と文学	12		6																					
		〃（論文指導）	5																							
		社会の認識	12			3		6	1	9																
		〃（論文指導）	7			1		3		3																
		科学・技術の世界	3								21	1								5						
		〃（論文指導）	2								1															
共通	体育学B				4																					
	統計学							10	6									3								
	主題別への振替(外国語演習・基礎科目)	24			3		3	4		9																
基礎科目	人文・社会科学の基礎	5			2		4	3																		
	線形代数・微分積分・数学概論									87	33															
	物理学									30	1	1						6			2					
	化学									13	1					4		11			3					
	生物学									22						1		2			5		1			
	地球惑星科学									11																
	日本語・日本事情																									
	計	105	0	6	13	0	18	1	30	6	194	36	1	0	0	0	5	0	27	0	10	0	1	0	0	

2. 外国語授業及び実験等担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員1人につき、責任部局は8～10コマ、準責任部局は10コマ）に計上）

授業科目	部局	文		教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水		
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専		非	
共通	体育学A				73	21																				
	情報学Ⅰ・Ⅱ																	15	50							
	インターンシップ																									
教養科目	外国語	英語																								
		ドイツ語																								
		フランス語																								
		ロシア語																								
		スペイン語																								
		中国語																								
		韓国語																								
		英語演習																								
		ドイツ語演習			4																					
		フランス語演習																								
ロシア語演習																										
スペイン語演習																										
中国語演習																										
韓国語演習																										
外国語特別演習																										
基礎科目	心理学実験	8																								
	基礎自然科学実験									6																
	自然科学実験（物理学）									52	12							12			4					
	自然科学実験（化学）									26	16					4										
	自然科学実験（生物学）									48	10															
	自然科学実験(地球惑星科学)									18																
	計	8	4	0	73	21	0	0	0	150	38	0	0	0	0	0	4	0	27	50	4	0	0	0		
	開講コマ数(講義換算(×5/8))			5	45.63		0	0	0	93.75		0	0	0	0	24		16.875		24		0	0	0		

(準) 薬学部、農学部は講義換算(×6/10)

注) 「部局経費負担による非常勤」として、教育学部の注) CALL授業については、英語Ⅱ20コマ、独・中各8

3. 責任部局の開講コマ数（配当教員1人あたりの負担コマ数（講義換算）が、責任部局では5コマ以上、準責任部局では6コマ以上必要）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
配当教員数(H28.4.1予定)	24	12	4	6	66			(準)1	6	(準)2		
開講コマ数(講義換算(×5/8))	120	60.63	21	30	355.50			6.0	30.0	12.0		
配当教員1人当たり負担コマ数	5.00	5.05	5.25	5.00	5.39			6.00	5.00	6.00		

4. 全学支援開講コマ数（上記1及び2表で3表に算入しないコマ数）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
開講コマ数						1		3	24	2	1	

5. 全学協力（総合科目及び一般教育演習（フレッシュマンセミナー））担当コマ数（責任部局の開講責任コマ数には計上しない。）

授業科目	部局	文		教		法		経		理		医		菌		薬		工		農		獣		水		
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非
総合科目 環境と人間 健康と社会 人間と文化 特別講義	環境と人間									3		1						4		3		3			4	
	健康と社会				2							3		4		1									1	
	人間と文化	1					1		1																	
	特別講義																									
	一般教育演習(フレッシュマンセミナー)	6			2					7									14		9		2		4	
	〃 (論文指導)						3		3	5		12		4		4			11		1		1		1	
一般教育演習への振替(外国語演習)									2																	
外国語演習(全学協力的分)						1		1			4		1					6		1				1		
計		7	0	0	4	0	5	0	5	0	17	0	20	0	9	0	5	0	35	0	14	0	6	0	11	0

6. 全部局の担当状況

部局	文	教	法	経	理	医	菌	薬	工	農	獣	水	外
専任教員数(27.51助教以上専+外)	100	40	62	48	230	228	87	53	377	122	50	78	
開講コマ数合計(専+外)	120	83	23	33	343	21	9	14	89	26	7	11	
教員一人あたりの開講コマ数(専+外)	1.20	2.08	0.37	0.69	1.49	0.09	0.10	0.26	0.24	0.21	0.14	0.14	
開講コマ数合計(専+外+非)	130	111	24	41	435	21	9	14	139	28	7	11	
非常勤担当コマ数	10	28	1	8	92	0	0	0	50	2	0	0	
非常勤依存率(非/全体)	7.69%	25.23%	4.17%	19.51%	21.15%	0.00%	0.00%	0.00%	35.97%	7.14%	0.00%	0.00%	

全学教育科目は、旧教養教官団を継承した7つの責任部局と、医学部保健学科の新設を機に設けられた2つの準責任部局を中心に、広く全学に支援を得て実施されている。

表1、表2は旧教養部から引き継いだ定員（配当教員）に基づき、責任・準責任部局が開講責任を負う科目のコマ数である。

責任部局については配当教員1名につき、講義（表1）5～6コマ、実験・実技・外国語科目（表2）8～10コマの開講責任を、準責任部局については配当教員1名につき、講義（表3）1～2コマの開講責任を負う。

表3は責任部局の配当教員数と講義換算した開講コマ数を示すことにより、開講負担状況を示したものである。

表4は表1・2で示されるコマ数の内、開講責任のない部局が提供しているコマ数を示す。これにより全学支援の状況を示す。

表5は全学の協力により実施される総合科目・一般教育演習（フレッシュマンセミナー）の担当コマ数である。総合科目は各部局1コマ以上、「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）」の担当コマ数である。

表6は全部局の担当状況をまとめた表である。（ここでは、部局経費負担による非常勤講師のコマ数は「開講コマ数合計（専+外）」欄には含めず、「非常勤担当コマ数」欄に含めている。新渡戸カレッジ関連科目（多文化交流科目、留学支援英語等）は本表に含めていない。

（参考）年度別非常勤コマ数（全学教育経費分）（平成6-28年度） ※部局経費負担分を除く

年度	非常勤	一般教育演習	合計	増減
6	690		690	
7	848		848	158
8	752		752	△ 96
9	651		651	△ 101
10	656	4	660	9
11	659	5	664	4
12	656	9	665	1
13	675	10	685	20
14	679	7	686	1
15	692	15	707	21
16	694	16	710	3
17	655	14	669	△ 41
18	571	7	578	△ 91
19	488	7	495	△ 83
20	397	6	403	△ 92
21	347	6	353	△ 50
22	341	8	349	△ 4
23	343	5	348	△ 1
24	343	5	348	0
25	349	4	353	5
26	341	3	344	△ 9
27	346	3	349	5
28	348	2	350	1

(部局経費負担分)

	合計
6.5	501.5
40	443.0
51	404.0
52	401.0
49	397.0
71	419.0
52	405.0
65	409.0
62	411.0
55	405.0

文4、理1.5、その他（戦略本部）1  
 文4、理17、薬1、外18  
 文3、経2、理20（創成2含む）、薬1、外25（北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマ）  
 文4、経2、理23（創成2含む）、薬1、外22（北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマ）  
 文5、経2、理19、外23（北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマ）  
 文4、教育4、経2、理21、外40（北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマ）  
 文4、教育4、経2、理21、外21（北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマ）  
 文5、教育12、経4、理21、外21（北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマ）  
 文6、教育12、経4、理21、外15、地4  
 文4、教育7、経2、理18、農2、外18、地4